

治河要録

五六

番外書冊

水利農務

共六本

和書門	一七〇五二
類	二一七
架	四
冊	六

内閣文庫	和書
一七〇五二	類
二一七	架
四	冊
六	函
八	架

内閣文庫	番號	和	17052
	冊數	6	(4)
	函號	183	764

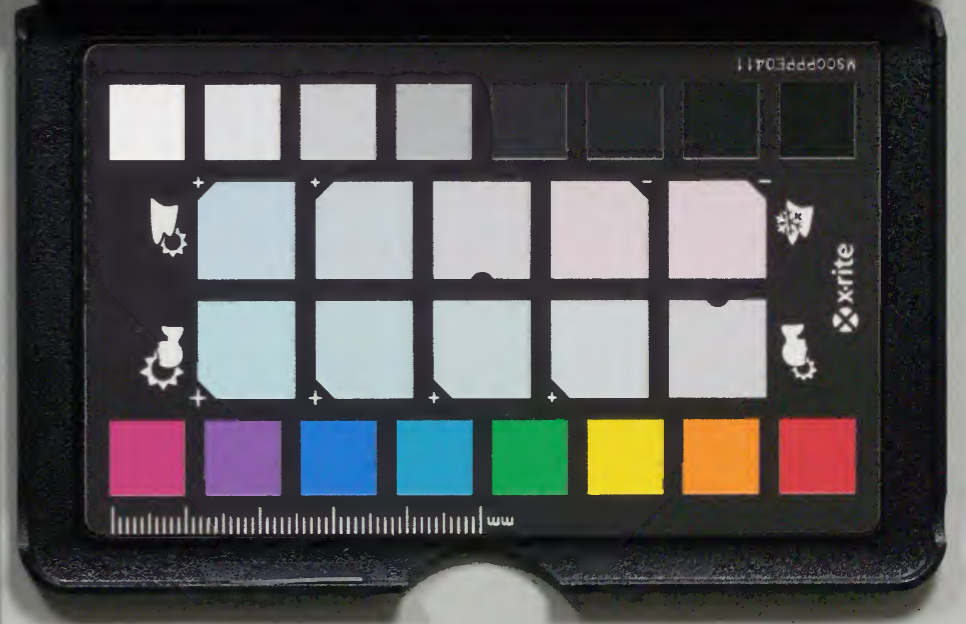


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

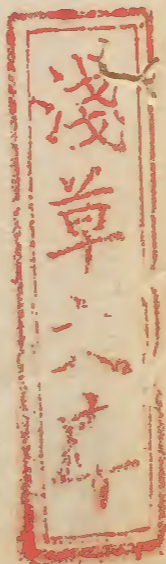


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



普請之部

水利農務
附録之五



竹洗丸古洗箆洗之事
箆及羽口蓋出之事

附. 箆及唐竹根伐持運之事

籠出之事 同步苗石造之事

網代出之事

杭出水分杭梁掛杭羽口杭苗杭之事

附杭出杭歩人足積方之事

堅竹筒積筒之事

在河内國



善餘了卒

和對了上
右同左同

此乃河内國河内縣

河内縣河内縣河内縣

河内縣河内縣河内縣

河内縣河内縣河内縣

河内縣河内縣

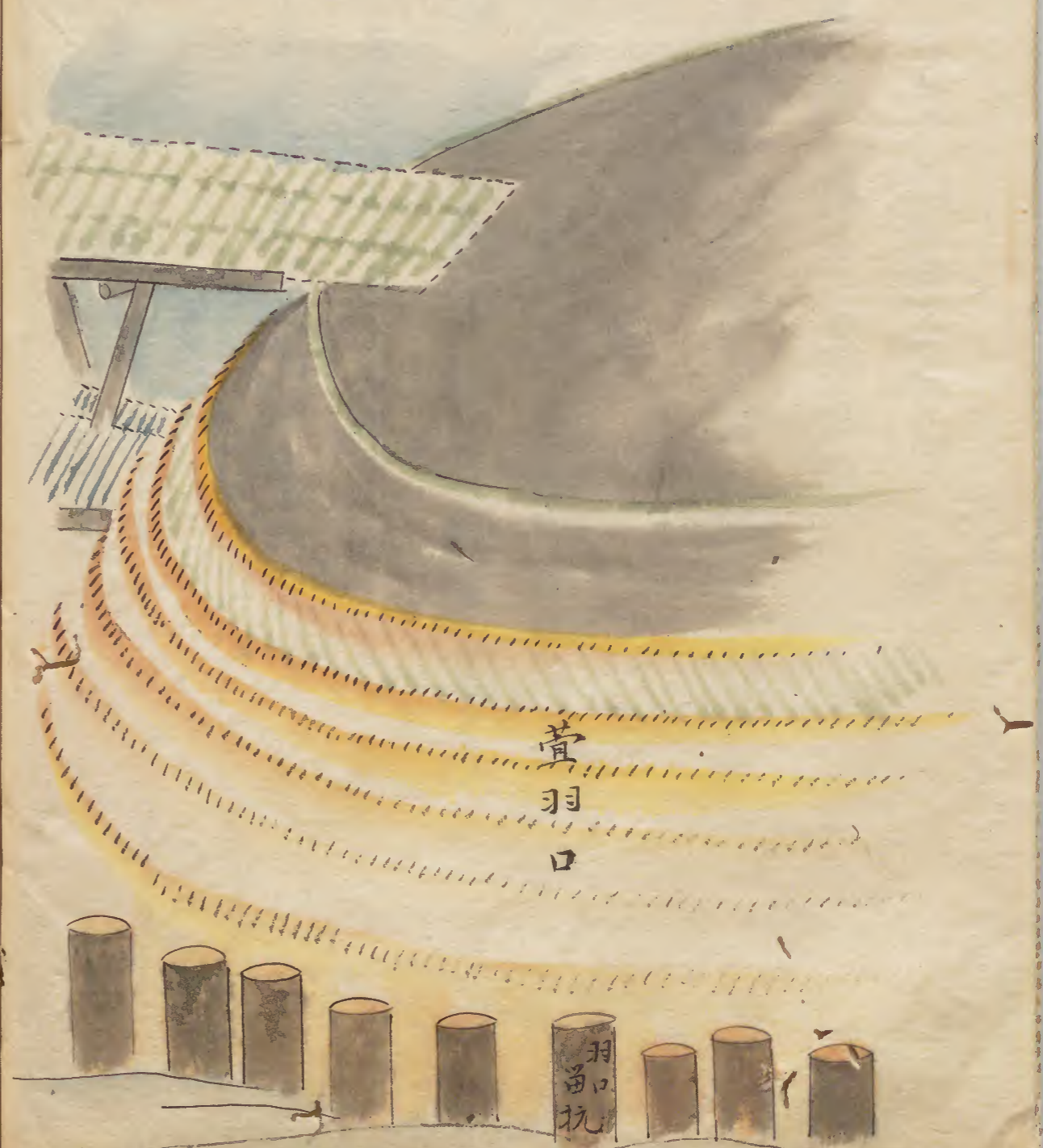
河内縣河内縣河内縣

河内縣河内縣河内縣

河内縣河内縣河内縣

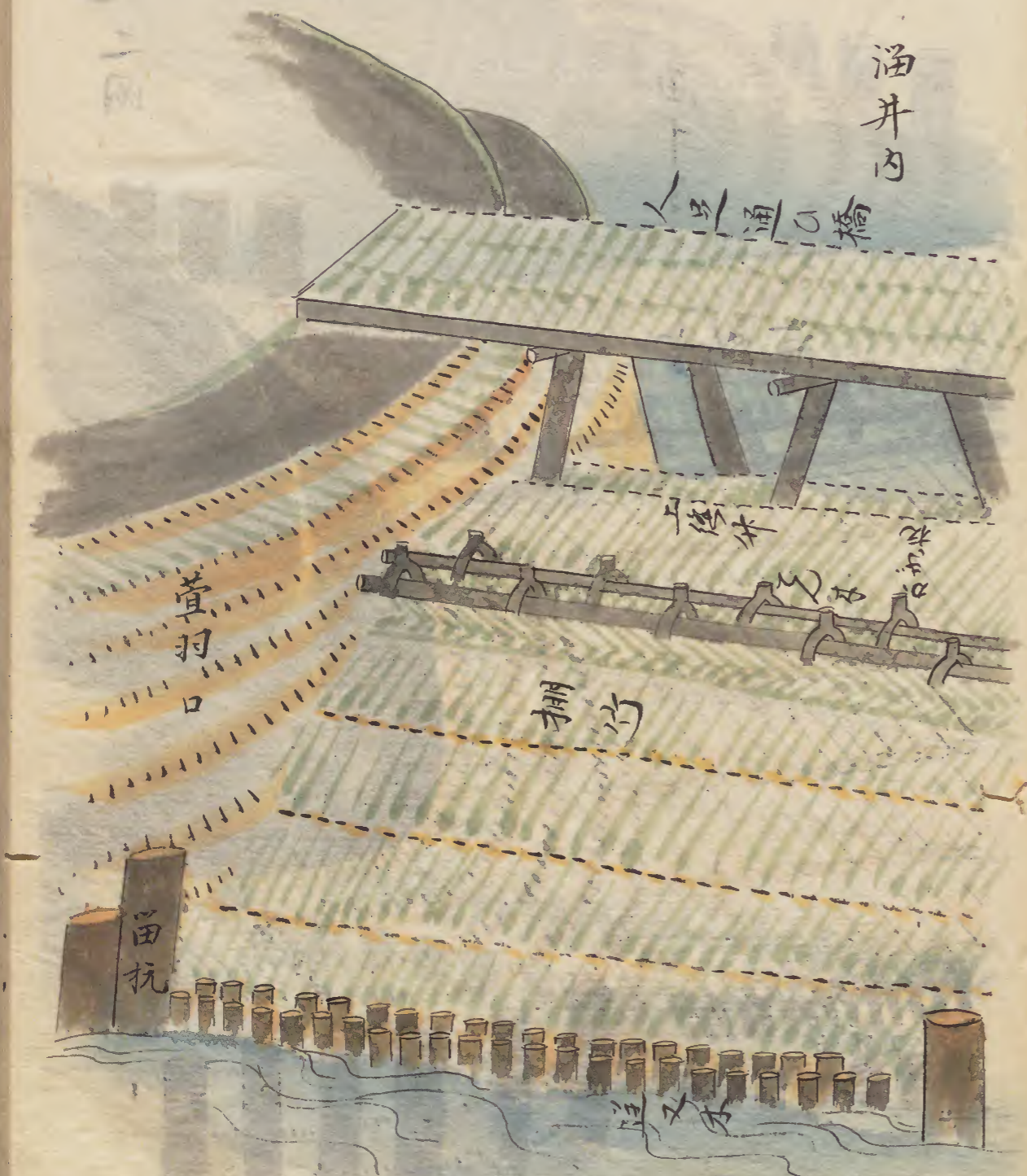


竹洗之圖



涵井内

人引通口橋



萱羽口

橋

棚

田抗

萱羽口

羽口抗

丸太洗之圖

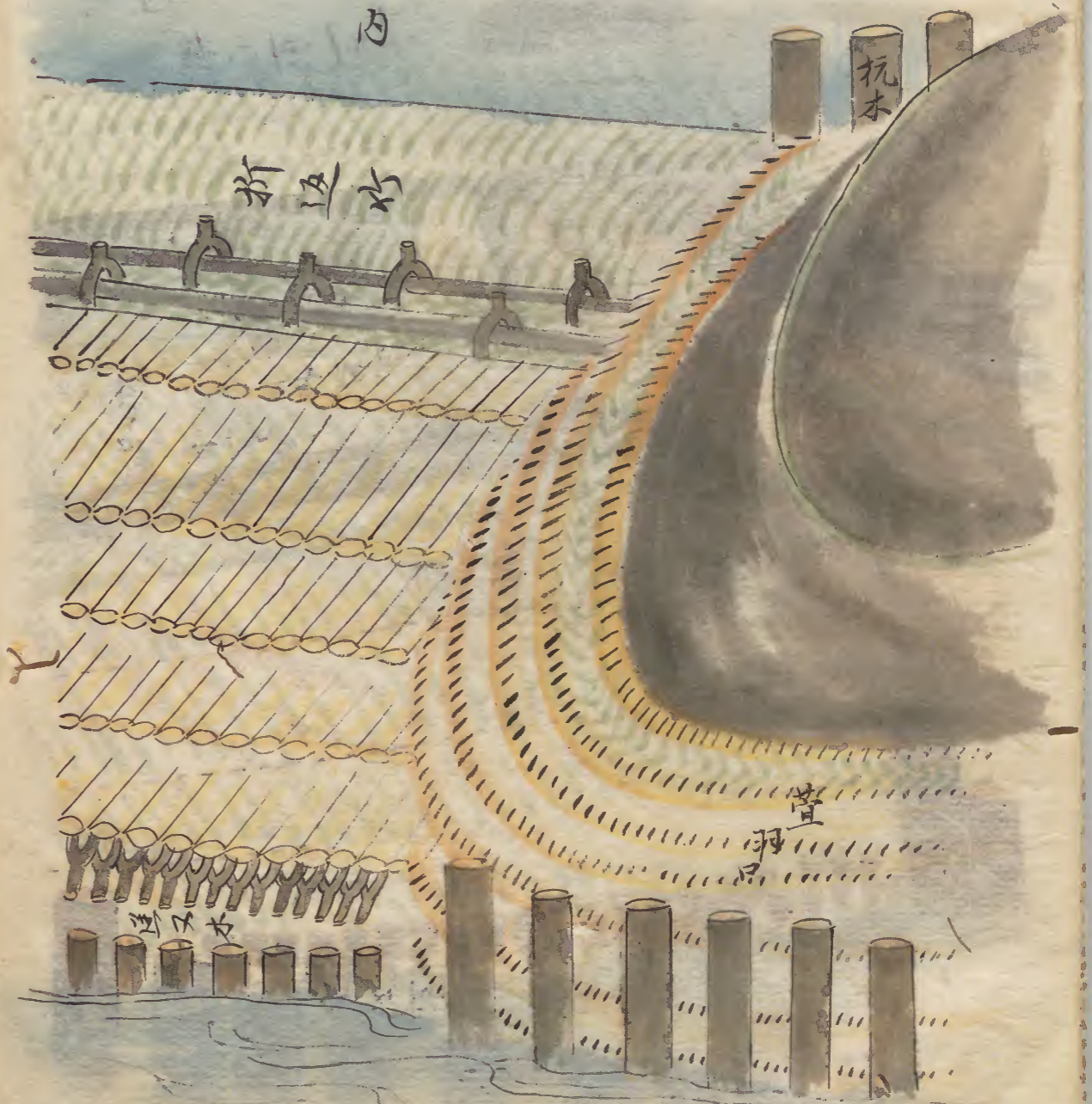
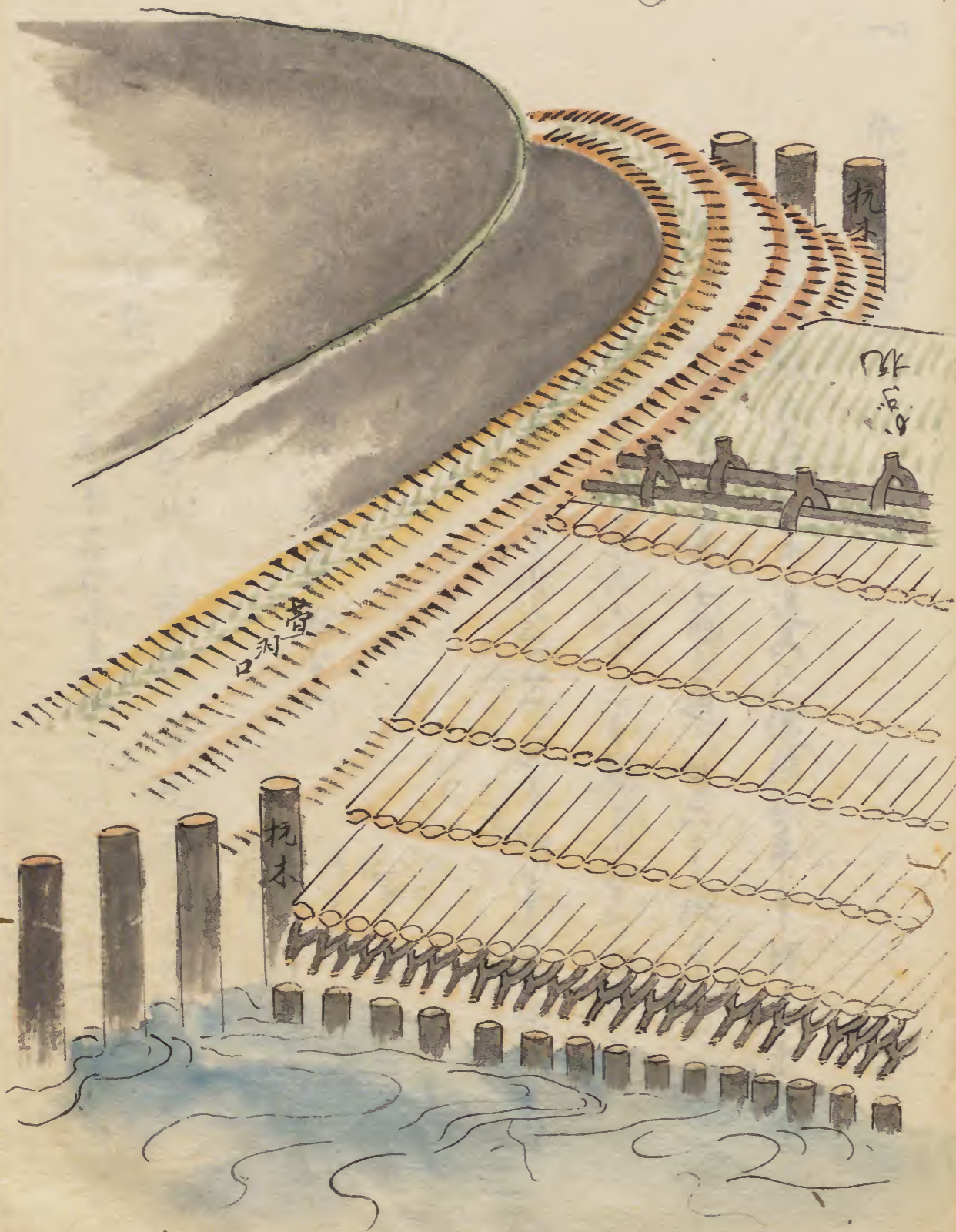
溜井内

新田水

杭木

澄

新田水



一 九古洗堰

敷萱 林萱四尺步透八尺繩依長平幸坪を束入分

上棚木 逆又上九古長之向目通六寸也幸棚を束入分

同木 長計乃目通六寸也幸棚を束入分七拾六寸

縫竹 糸唐竹目通計二寸也幸棚を束入分拾八寸

逆又木洗水落口へ巻乃七拾六寸

二十入木長二乃目通

幸尺也

二十入木長四乃目通

口也

上折返竹

糸唐竹目通計二寸逆又木も合

口通を束入分十八寸

縫行 同竹同引右折返苗縫口をきり拾八寸

水清茶

折返竹

茶並竹目通を式寸也折返苗通を七拾七寸

右苗縫 同竹同引を拾八寸

上通苗

縫 茶唐竹目通二寸也通間拾六寸

送又扣苗

轉木

苗押堰様 式は老堰様中大小准
木板一積 但長二尺五寸

溢杭

右轉木押苗様又付式引之寸之寸通但長六尺

杵皮

洗其漉水苗年々坪付杵皮を坪

人足

洗棚並折返縫仕之尺一式年々坪八人足

是老右同引堰様中之廣様洗ひ書面平均を

棚之間苗を以何間裁棚を右割合を以可積

右右九寸洗老泥砂利を雑場大堰に積方但

右堰左右両岸高寸子准一菅羽口茶書之通可

仕之右堰床堀込平均元縫仕之入用人足小

書面以外一積

一 小洗九寸堰 長拾間

高六尺 水流式間

土木

雜木廿八長式間を尺末口二尺寸幅長
拾間高六尺一本を通又本縫口通分

二口取目八拾寸 長六尺 末口二寸
之所目八拾寸

二口取目八拾寸

並口

二口取目八拾寸 長五丈 末口二寸
之所目八拾寸 長二尺 末口二寸

右之上

敷篠原

二拾丈 末口四尺 步遠八尺 繩
結方 二丈 末口四寸

左之上

押縫竹

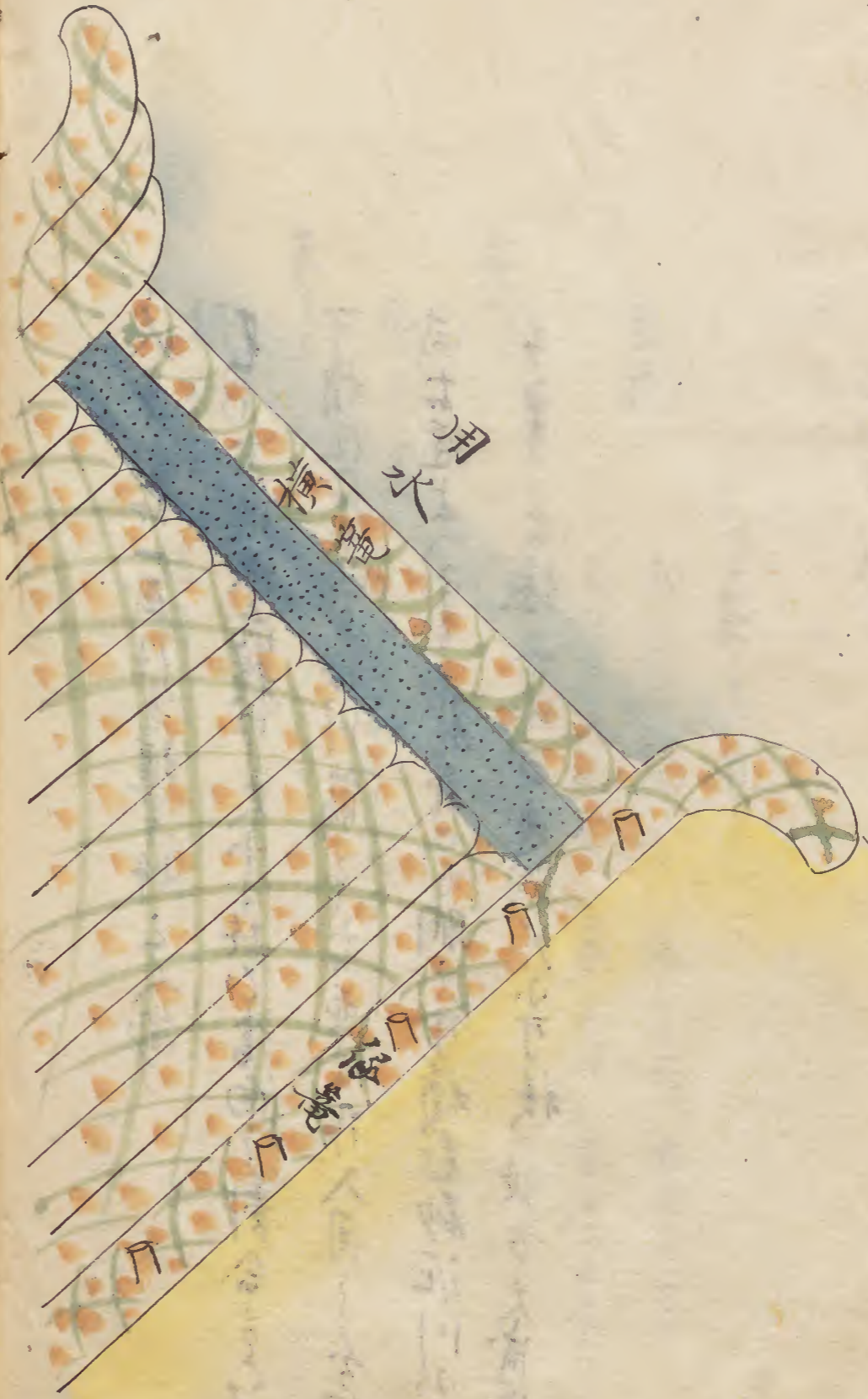
系唐木目通二寸 口二拾寸
但間 二丈 末口四寸

人員 右一或仕之堰幸坪之人掛

尾右堰水流様中大小、陸に書面、刻合を以
可積但石有、谷川筋、右並口、入用、分相
減右堰上へ、まう、籠、口、洞、可積、石、砂、泥、川、口、
右、まう、右、依、二、張、口、通、洞、ノ、小、可、積、 地方大成録

新井川

竈洗之圖



一 菴洗川幅松間 平均 流六尺

籠之松八本 長八間 堰高七寸

堰籠 二松本 但間小之本並堰高拾五寸

枕籠 六本 但高五寸五寸

押籠 五本 但右堰上柳川中幸か色計籠

人員 但菴作り幸人六名他少右菴造石人只々
石元を流しお糸割合を以可積

是ら右同引川中堰水持高下に流し枕堰籠も

坊減可有く小枕小川谷川筋と堰籠に分る

尺八寸間一と本を流し小枕を流し 地方大成録

菴原羽は萱羽は萱山と事

附 菴乃唐竹根成持運之事

一 羽は萱山と事 菴原より水除り家根を流し

厚き尺余竹を萱と事 葉を竹を方切流

を向小の本流し之を流し但一通流し

送跡小本通跡先計不し之を流し一年毎に七

を流し流分端のり込古流仕方悪れ羽に刺下る

又手上一年竹を萱と事 堰上上高

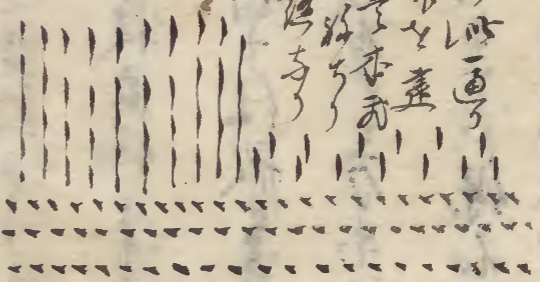
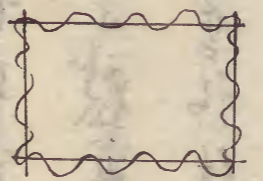
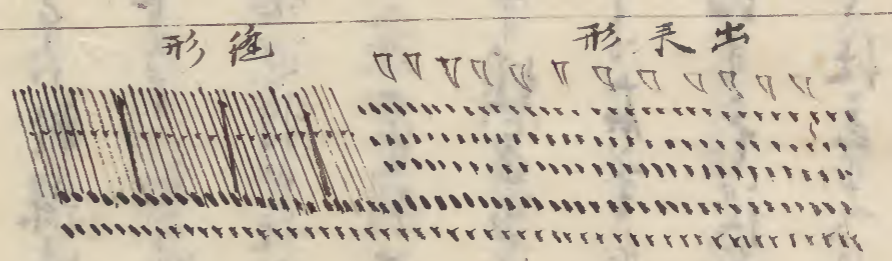
を流し之を流しへ高堰を流し之を流し

二寸位外へ出さ不流仕之上小口を流し之を流し

上等由人格別出本上等並流たり

由善法復少書

堤



此の面より
表へ並
すき
は
流る

一 藤原羽口幸人余はあつる九竹るに六本並へて

叶の先切より一尺迄幸本花組遠火工送り又跡方

小しき色継り幸人足不功者より一丈一仕洲る人

足より一丈一仕洲る一藤原幸並し小おき込込入

踏り足まより又藤原やあ込込入二五尺一継り

由幸

一 藤原羽口長拾間
三式乃水
横六尺

此古坪二十五坪 内二十坪羽口高二間

人足七十五人

但石元幸町幸坪之人
羽口仕之

石入用

篠原百四十五丈

八尺繩

是ハ羽口幸坪
七丈

系唐竹計百四十本 目通計寸口

是ハ右同計幸坪十計本

系直井百本 目通寸口

是ハ右同計幸坪二十本

之竹幸平甚い林あり竹は少くとも一ト不不トは
法計さすよりヤ

是ハ羽口割ナリ又ハのり出ぬくあり

右泥川砂川欠及ふより仕之方人足仕割さる

保方

善作目録見明細書

一 萱羽仕之方も川表のりふして水苗流く可築尚

と見小知一川表萱入尺繩式人ノ一ト九く及とぬ川

中ハ突込ハ細水浮ふリト表もして築込地形

小上大萱出ハ築込より系唐竹も水中ニ之右

萱と繩ナリを横つゆいリ萱小ハ川表向出

と可致方よりめんより羽小まね余り川表へ築出

水とありし切ちり萱ハ水の土ふたをい萱羽ハ

人築小まね竹も繩及ハ保水と別なり萱出

一の門出ハふして堅りナリ水浮るハ土俵も可

せられし萱出ハふして土乃流るるさく土まて埋る

うら萱出し地苗のくみ初に杭打ちなり土中なる
言サ堰ろむく低きまくにわくくは沼川水一川除
るり年羽口破損時羽口坪積り萱中仕出
中萱の中へは根中根入深くまを保かす
根中深きまを根を掘るちまら崩れなり
根入深く入尺縄二尺にして築堅く少くは丈先に
水防ろりやな中へは水勢あるまら用萱之方
中へは根川表へ之中川水流く保くく萱出
し杭打ち少くして集るるなり
由善清大概念

一 岡東流萱羽口積方よりハ

一 欠所萱羽口長拾間 長言を丈 横六尺

一 け土坪拾六坪七合 内拾坪羽口方六尺

一 人只ふ松人き分 但 土元を町を坪 二人羽口仕を

一 土入用

一 野萱七拾束 八尺縄ノ 是ハ羽口を坪七束ノ

一 系唐竹百計拾分 目色二寸也 是ハ系坪拾二分

一 系土坪百計拾分 目色三寸也 是ハ系坪拾拾分

一 萱出の園東才一、水別を不利根川戸田川戸
 川中川小貝川結川より堀川小仕之、余國小と
 泥川よりより泥川と近き石を、左蛇籠普請
 出来り土出杭出さず水別をいひ土出さず仕之方
 水深き処を下埋を屏風返し、下埋之を正と云と
 持丸く中川表の方の方萱羽は、包む中一の
 中の長川、大小水ある場所より仕之る事、更
 換りなり大槻土出の根方より中松松武より長松入
 小房を余よりいひ併土出の籠出石出さずの松之松房
 とも松房とも長くいひ、中より多く、堅樺丸く出

松、いひさね、換、早く、中一の根方、更、岸固
 小羽は、いひさね、中一の切、中一の表、
 向にお、この並杭、歩へ、毛と、新巻、
 並杭、いひ、羽は、の、出、さ、り、
 萱出、仕之、方、竹、を、絶、之、方、悉く、功、者、
 正、上、下、さ、り、
 中、一、方、依、埋、上、内、中、一、
 基、盤、絶、而、
 境、際、毛、竹、林、
 中、古、人、
 地方凡例録

病むときは別々の教多し

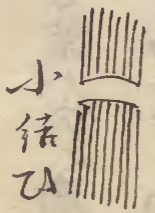
中書請大槪集

一 河津へ萱出へて出さる申先川の方へ掛つたの内に
 二人ふとあつるるとま長き糸井やま川の方へおちて
 糸井のむやみ寸なく川の方へ中へ懸くるとへ
 よし小信ひの萱を把持おき定かやとびへ萱の原れに
 ねとにまや為く押へてまはしはよおねりおぼはれ
 こゝはまゑるおぼへて返るやとて家あるとて暮らして
 二五うしこまうも萱とゆきまゝとてかたかた

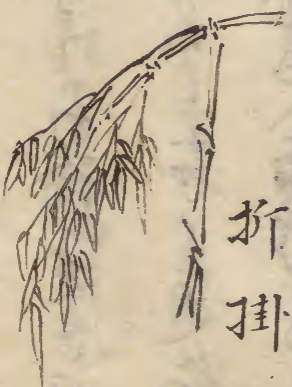
萱の原れに
 糸井のむやみ寸なく川の方へ中へ懸くるとへ
 よし小信ひの萱を把持おき定かやとびへ萱の原れに
 ねとにまや為く押へてまはしはよおねりおぼはれ
 こゝはまゑるおぼへて返るやとて家あるとて暮らして
 二五うしこまうも萱とゆきまゝとてかたかた



延萱



小信ひ



折掛竹

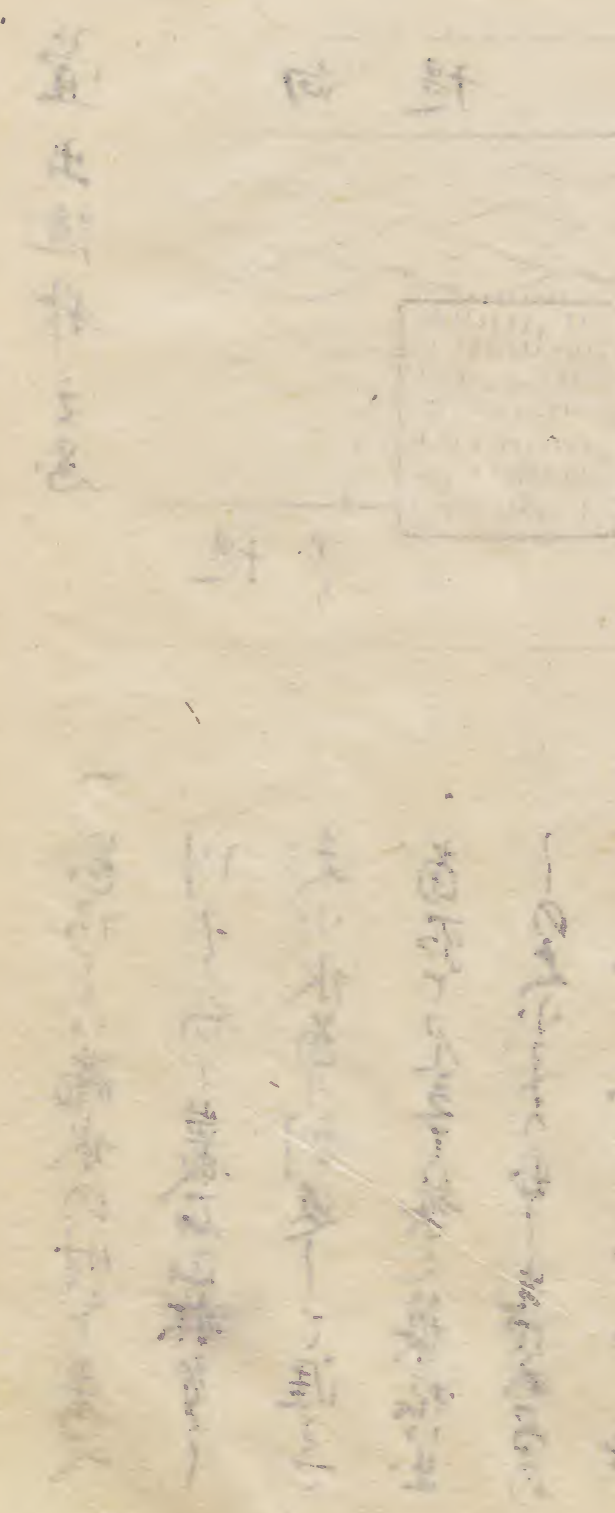
但し腸折れはうしこまより水色うまし如しよの好
 築出も付に腸折れはうしこまより水色うまし如しよの好

つらと集るといふより、若幅花の水底まで涯をふく
向ひ迄掘崩し出の根を岸の内より掘り出して集む
るに但し水はき平松向花も集むるに筒結へ
を二と度し入るに筒結の井の中へ萱を包ては
尺早はふふ集むる繩にて結い出の取捨るも方々
へ向はるに二の結いの上より流し入るに萱を並
へぬ萱を交と掛て取ら上り最子松向は松み
るに川中へ集むるに萱を流し中へ不滅は左中の上
より去るごとく入るに但し取るの筒結の繩をば入筋に
附し出の先へ付は方へ杭とち取集まおきを上へ

右のち萱を並集むるに筒結をばふく結て
二重に繋ぎ繩結しつておと取てより筒結の堅く
結ふへつら子細い水底へ付付き平より水の抜れ
柳に和ら結いしは法より成るなり又筒結の繩を
和ら萱をこ把花は結いま右の繩を付て出の
の結いなり埋むる先へ筒結を二結付たり又杭はと
ち結付するものなり
出の此長殺并は場取ら言下おし井はつらつら
りる或る古の法をいれりる窟ま平方より丸花
へ場取ら中へ先を堅り花を集て去り先は向

福もろりして井形の松の出へてまきを萱と葉柴を
 萱出りのとくく二築を是川表の出へてまきの角
 より不仕くつるまきのるわへり又水と流り砂と
 三言をたう出りの法は川表を俵川裏を俵又割け
 ても去り着萱不足の取らる川表にかんき堀を仕り
 川裏に堀はたりまきを付へりま附やうに堀同ちま不
 足らる小くく切て飛へり附へるを後少に生茂を
 川裏に柳を植へ竹と植へ後にも結構なる出へに
 なるこのたより 尾満水のとき
 何れも是川幅廣くまきと満水七切に化る川を

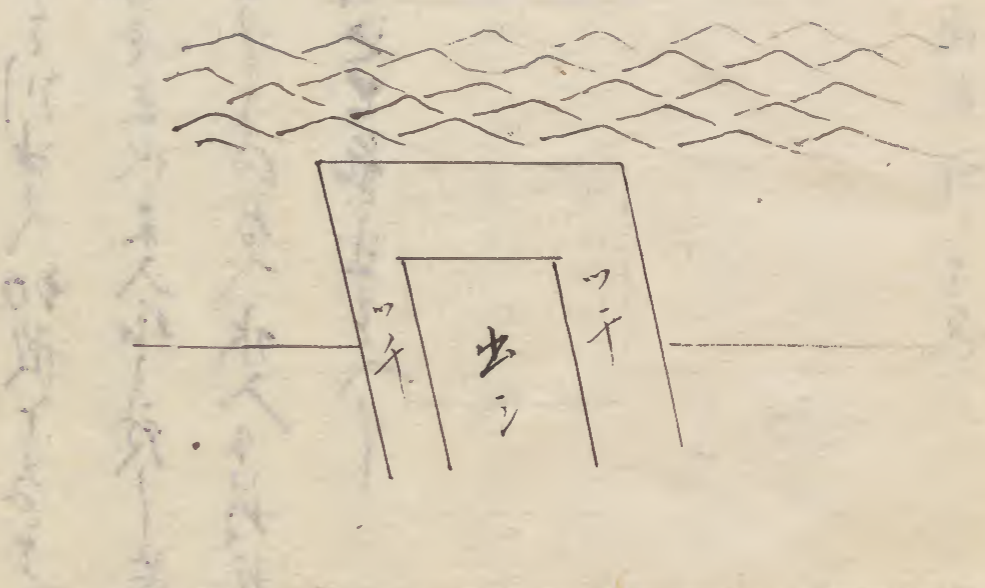
のまらう大いなる川の幅狭く切満水はりこふ
 川上敷万石の村にまき川下まき支川堀出りの赤
 後竹木と植へり上の村にまき水入るへり
 千本のまき植へても後まき大分の土地を押し流る非
 なるまき植への後まきをる簡事



川岸の水底深き所より出はるゝ
 子候岸より胴結ひを入置申す
 向の出るゝは筒結の長は
 川岸へ子候入申すは
 岸より胴結入り候は
 地方竹馬集

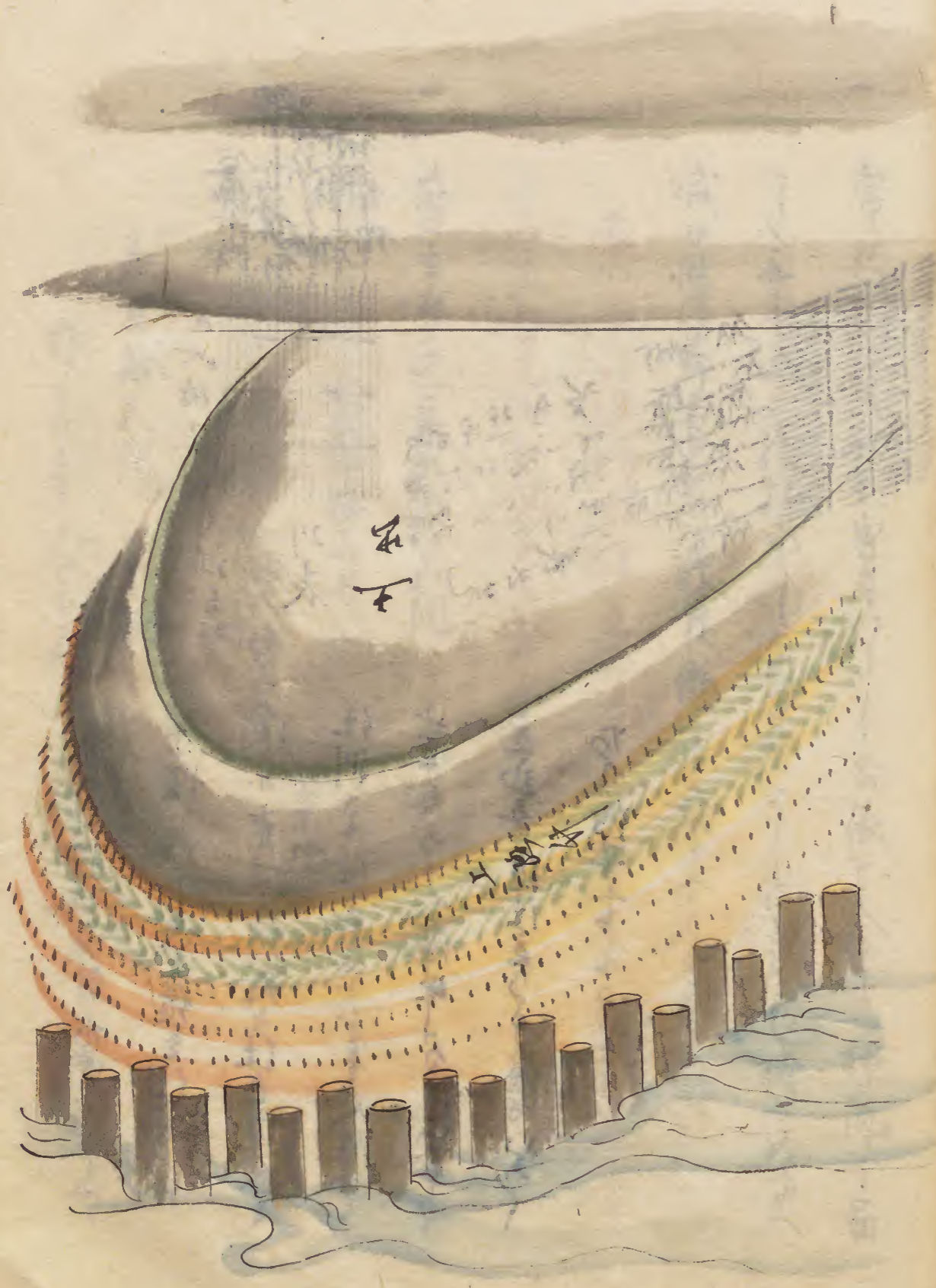
前後の堤と籠とを包む
 うゝ切の形あり

川岸の水底深き所より出はるゝ
 子候岸より胴結ひを入置申す
 向の出るゝは筒結の長は
 川岸へ子候入申すは
 岸より胴結入り候は

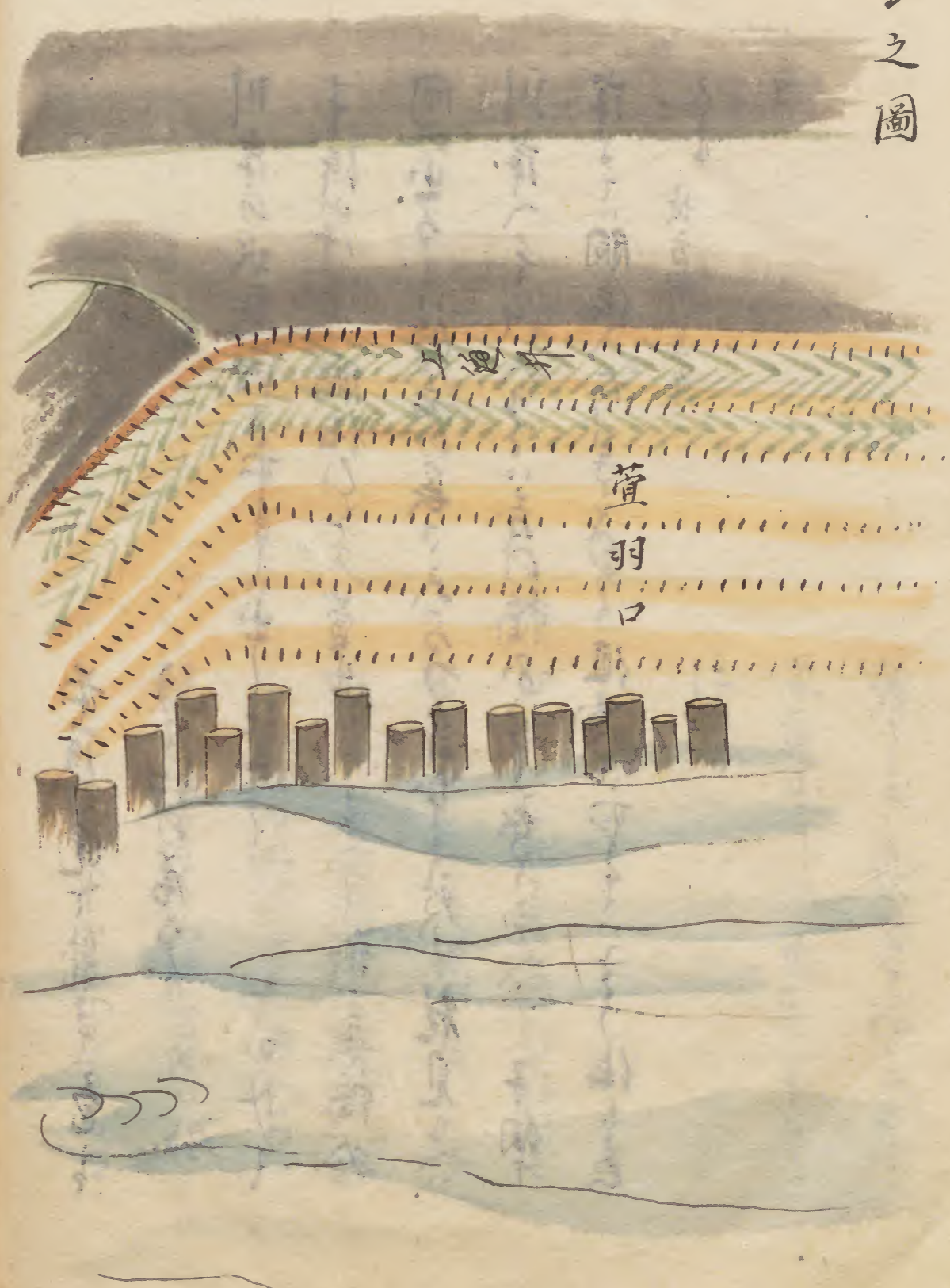


縁と云ふは籠と水
 不通出へり近所を干して
 はるゝ
 一 出を籠と包む付と
 出の前後堤の膜と
 之籠と包む心の上の方
 と云ふは外の方には
 堤出候は白根
 うゝ切の形あり

萱之圖



石



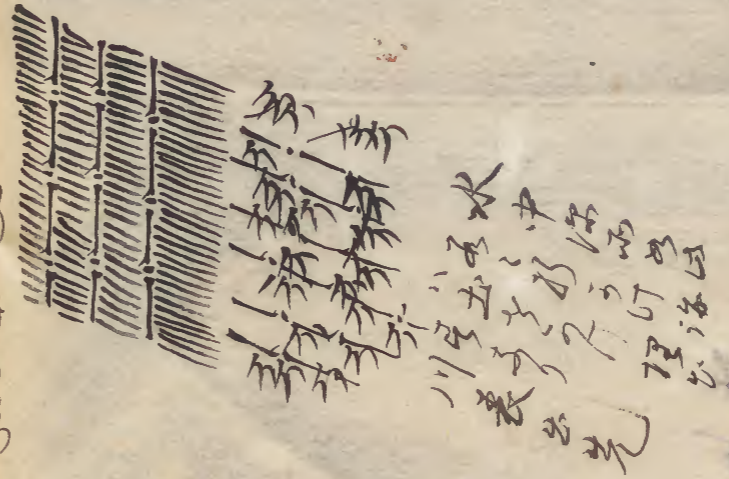
水

萱羽口



此竹之

川表



水
中
河
水
川
表

兼取羽口の口水中抄本

下埋とて水上維を仕とす

関東才一川路に住方人只

仕測る仕とて一を大取

萱草とて一維味とて六本

之抄を維はとすの維方とて

たし繪取書とて

一 常此川より切取出たりし一古儀と入りし相流一苗

りし一苗はくねたなり一用ありのりくたりて減りあり

減り附の考書あり迎書働り申功とて入あり

赤い糸の塊切取埋之の糸より糸とて一糸戻り

糸の塊とて糸あり

一 菅出たりの長尺拾八間

長尺拾二間

此尺

は坪に拾四坪六分

平均

海一尺

横九尺 埋坪

長尺拾八間 平均

言を丈二尺
横を丈二尺

内を丈二尺

坪四坪

叶坪百口拾口坪口合 内八拾口坪口合 羽口

二口合坪百七拾八坪九合

右入用

山董二百口拾口束 但

但埋 拾束

野董二百七拾九束口合

但 七束

系唐木口口千九拾九束 目通口二寸也

内 千口口口拾九束

但埋 拾束

羽口口口坪 拾二束

他六拾九房 埋 拾束口房步口口董结绳束

人号千口口口拾口口口

但 七束

善清貝倫九明細言

一 藤至根伐持運人号一定法

目通二寸也 人号口口口口伐 但切插杖并

右同防 人号口口口口并

長口口口步遠

人号口口口口持 但切插束结

地方凡例録

唐竹根伐持運

一目通口口寸也 人号口口口口伐

但 伐插杖

一同口口寸也 人号口口口口伐

同

一同口口寸也 人号口口口口伐

同

一同口口寸也 人号口口口口伐

同

一回六寸四寸

一人六十本伐
一人六十本拵

同

定法并 杉材根伐書

籠出—并 歩留石流木—事

一 大籠出—と濱州富士川安倍川大井—仕立る水刈り
 長二三十間より取：生場取—者何れも長くつゝを石川
 下へなる水—不送松—仕立る大出—と石川—大い
 水勢はよく—一通の籠出—と籠保け大籠出の仕方
 沈桿と地形—入堤付の根方と出—して根先と丈夫
 川先と出—つゝも大出—より横へ長—二間半—水流
 困痛出—に下—外—棚外—中—間敷—路—を—下

式—下—掛—水—更—前—固—の—仕—方—を—功—者—と—し—て—大—造—る
 着—付—る—由—り—は—二—尺—深—を—人—七—寸—籠—出—を—し—て—地—形—桿—横
 二—間—余—の—い—も—付—武—る—桿—二—組—並—へ—し—て—長—大—出—の—間
 敷—を—一—組—組—入—へ—し—て—透—し—續—き
透—し—て—長—い—も—も—拾—り
 透—し—て—長—い—も—も—拾—り
 透—し—て—長—い—も—も—拾—り
 透—し—て—長—い—も—も—拾—り

水中へも組は—入る—桿—桿—の—透—く—不—い—為—籠
 よ—元—合—も—竿—籠—襟—籠—土—出—の—根—先—も—通—洞—を—し—て—善—法
 余—川—を—き—く—人—足—不—利—を—い—る—も—不—出—材—村—役—人—人—足—を—以
 て—功—者—と—し—て—不—出—材—之—上—方—も—も—出—る—川—を—と—大—出—
 け—は—形—大—概—日—和—を—し—て—之—の—仕—立—を—し—て—透—り

志いふまゝにして丈夫なる川除あり 地方凡例録

一 又云蛇籠のり竹を竹を竹の帯のり竹あり竹あり

着より細き木を編み籠の形より一石を造り用る

とり目ありき木枝木柳の枝や杯を造り石のり

らぬ松にまゝ 牧氏秘用

一 重ね籠たゞへ籠もをく割木の幅より一寸五分

より一寸五分 籠目より一寸五分 他より五分

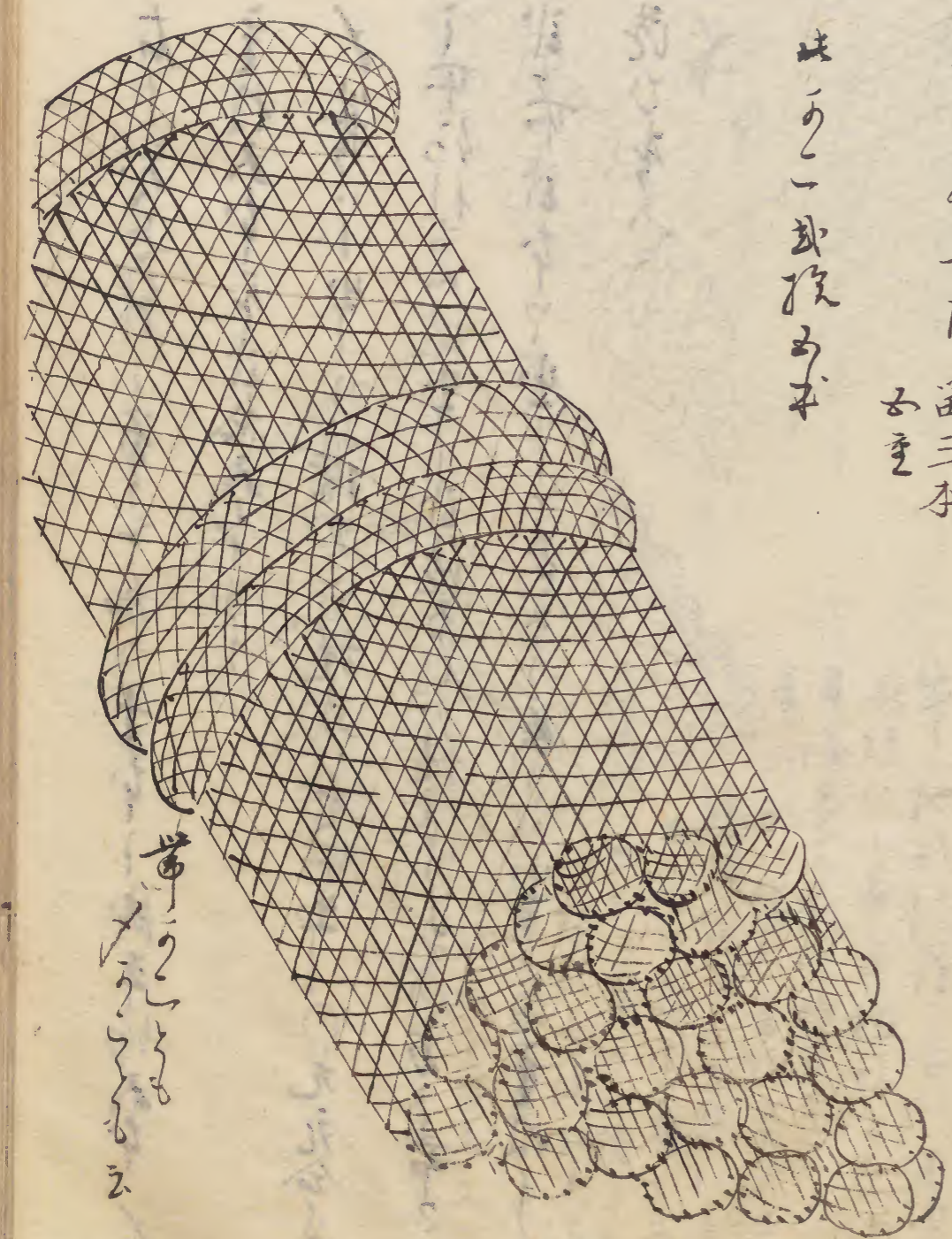
反籠 平一坪 竹六房半 但一坪二十曲
籠作り人一人 但一坪一坪

此も竹のり竹のり地より反蔓排蔓等を以て蛇籠

を作り作り用也 隈防溝池志

蛇籠出しを五間 田七本
田三本
女重

此より一坪換り本



蛇籠のり竹

浦八本
 一 舟出し長八間 苗四本 地形かこ 水取之尺を
 二 舟を四十八本を
 三 此を積式十七本

ノかこ
 四 舟水ノ
 五 舟水ノ

一 舟出し長十間 浦十本 苗五本 地形かこ 水取之尺を
 二 舟を四十八本を
 三 此を積式十七本

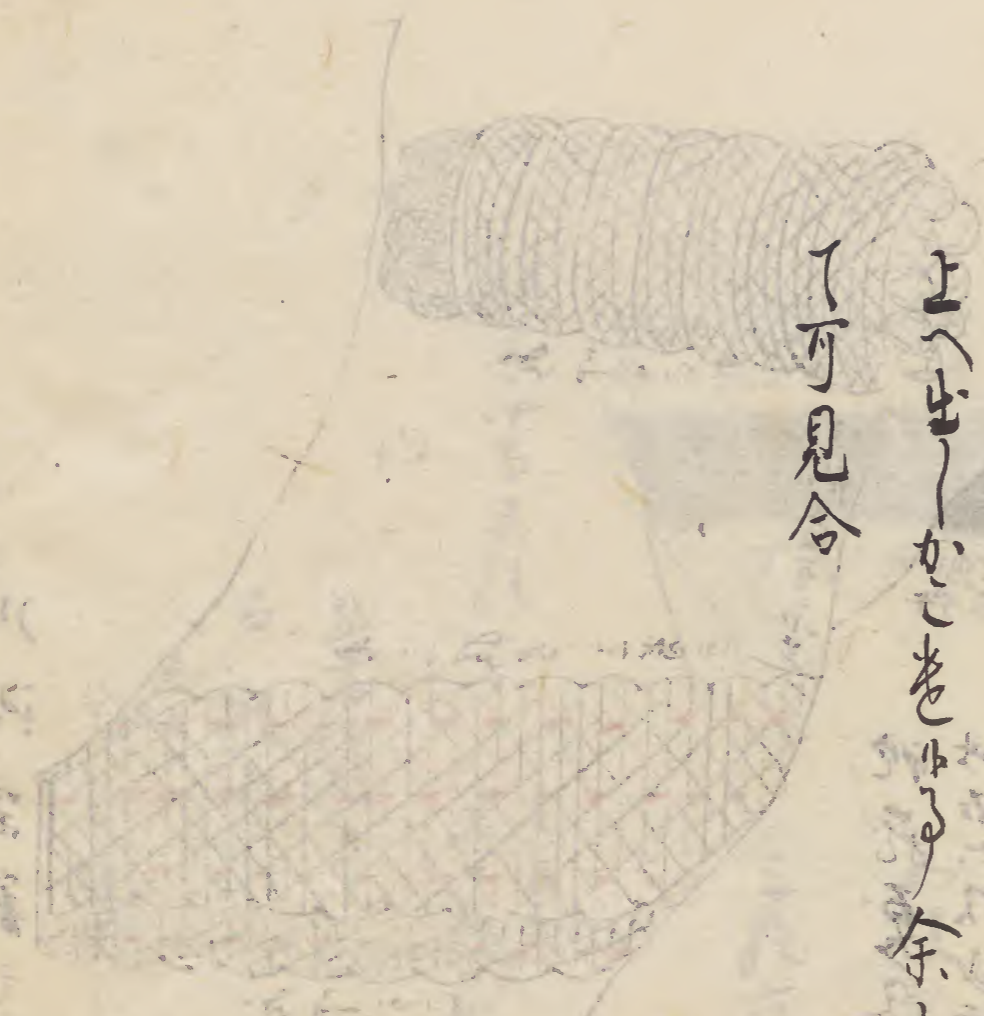
ノかこ
 四 舟水ノ
 五 舟水ノ

一 舟出し長拾間 苗六本 七本 地形 六本百八十本を
 二 舟を四十八本を
 三 此を積式十七本

ノかこ
 四 舟水ノ
 五 舟水ノ

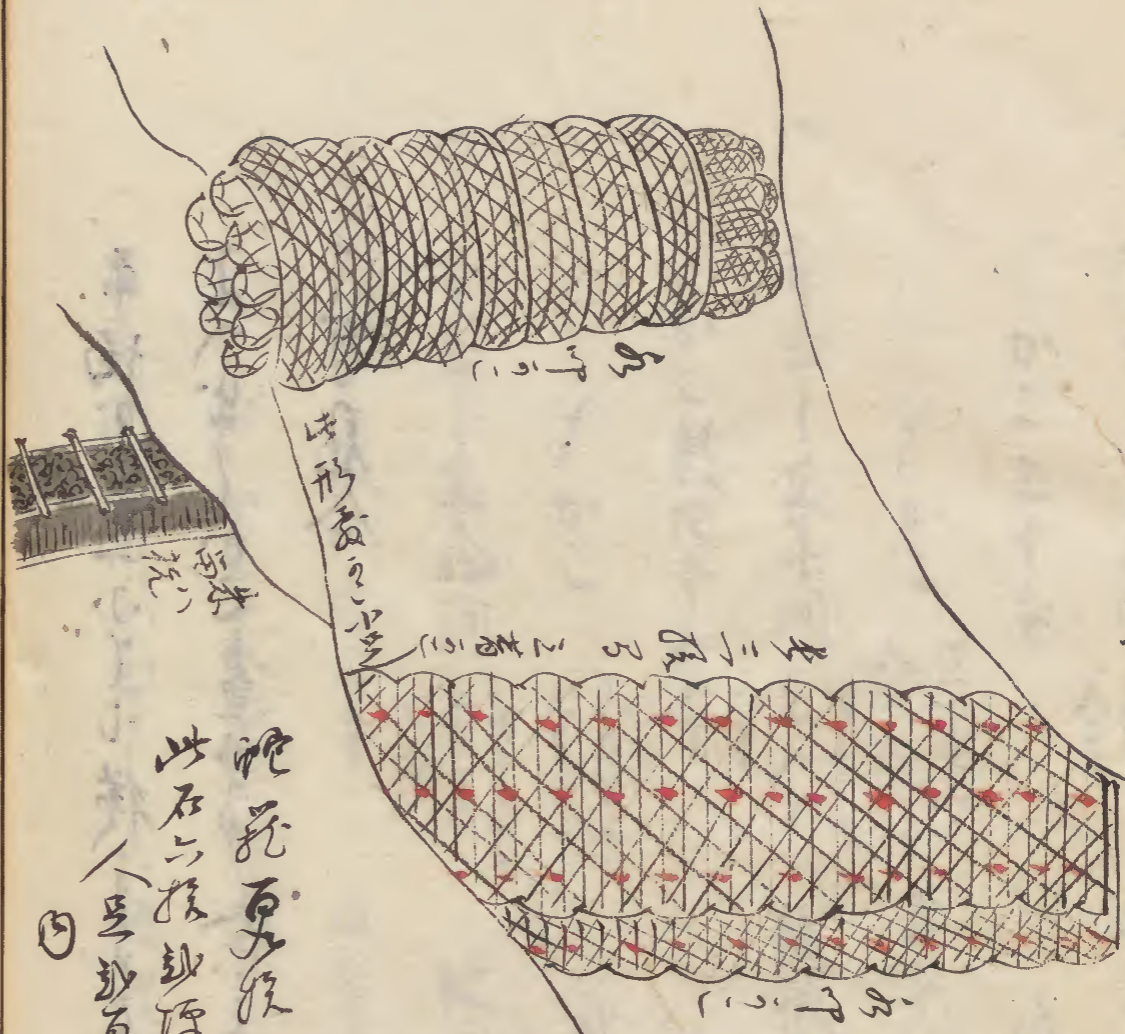
右通例谷川舟出し之の地形かこを地形ろくを

平均かこ立ふして横よりよりし地形を
 上へ出しかこをゆる余も右き伊普待帳
 了可見合



[Faint handwritten notes and bleed-through from the reverse side of the page.]

川河田籠之事



此川河田籠之事
 此川河田籠之事
 此川河田籠之事

橋下など川河田籠
 橋下など川河田籠
 橋下など川河田籠

波が重なる川河田籠
 波が重なる川河田籠
 波が重なる川河田籠

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

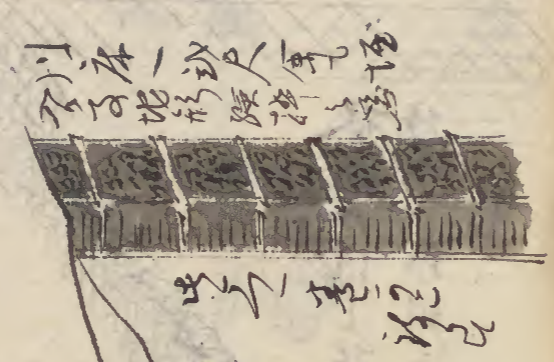
此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事



此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

此石田籠之事

一 蛇籠歩當り 兼坪造り事

一 長八間を幸本に定る也

長一尺九寸籠を武分 同九尺を二分

同武分を四分 同武分を五分

同之局を七分 同之局を七分

同四局を八分 同四局を九分

右を武局を六分五分を九分を倍小武

本と九分を局を六分五分を倍小武

普請目論見明細書

一 甲州より蛇籠長武間五渡を尺六寸籠を本人

幸人六分二付の長武局五渡を尺七寸同幸本人

幸人九分二付の長武局五渡二尺同本人只武人六分

二付の長武局五渡武人六寸同幸本人只尺人五分二付

甲州川

普請目論見明細書

籠作人只二付

一 蛇籠幸本 長八間 五渡を尺七寸

付竹拾八本 目通四六寸四

人只幸人 造本間平幸武分計厘之毛一箇

一 同幸本 長八間 五渡武人

此竹計拾七寸

人甲九分余

右同所

但之籠腹能計外毫加二五寸七分

安政川

平坪四坪五合五分

一 同

長六間

五寸七分

以竹拾七寸

人甲九分余

酒白川

平坪二坪九合五分

一 蛇籠

長八間

五寸七分

以竹拾六寸

右同所

人甲八分余

右一通由庄小左東海道大川甲名川一之籠

造主或石造亦一也所計積之少不在

少之籠竹并造人甲九甲州右由村作伐後為

造小長寸書面之在之類を以積仕

一 相州酒白川後州富士川河名川大井川老州

天龍川甲名川一蛇籠老方書面一通由庄小左重

籠人甲掛木場不之重多由庄小蛇籠石造人甲

之者午不之造積之少候付お除中

此書は方内政方より賜依入右也書上

是

了

駿州富士川

一 蛇籠

長六尺

出籠

以法石川合之夕九丈

一 同幸

長六尺

三籠

以法石川合之夕七丈

右富士川蛇籠之井深池也各情是下節外川之同形

幸尺七寸之井深池之深積付皮枯別句死活く由著

法下より二四里川上より大石内深池出水之節右石内

普清下をるゝ流出し不為の水指左出水節別句法く

五渡式尺之蛇籠より押前へ流し出し候付内深

二付石渡減り下保不置却之由不益り下保成り

出籠之候に付保に在りて五渡式尺之積之籠十塊

畑岸へ仕之り付出籠小水節より外に幸籠より

候共合掌丈尺夕引之右丈より下より越持り候候に付

幸尺七寸より保一戸より試仕之り候保小付より以候に

右五石蛇籠之候より幸尺七寸より仕之り

駿州大井川

一 蛇籠

長八間

五渡式尺八寸

此法石川合之夕七丈

右大井川之候句死活き荒川内深池より富士川へ競

少く白死す。弱名此は流す尺七寸の籠より仕る
出さし出籠流す或は出先押切付流減りさす由
不益に在成と示し仕るに通仕る事ナリ

後州安倍川

一 蛇籠事ナ

長六尺

尺流す尺七寸

以流石止合ハ夕事ナ

右安泊川に依り大井川に籠りし為死すし水南
出さし破損し赤蛇籠尺流減り事難保し付仕る

通仕る事ナ

遠州天竜川

一 蛇籠事ナ

長六尺

尺流す尺七寸

流石止合事夕事ナ

右天龍川に依り赤蛇籠尺流減り事難保し付仕る
井川に見籠りし常水に依り勾死すお見蛇籠
尺流不相当り由流す付許儀仕る由破損し新大井川
同様に由流す川床不宜出水し流す川床掘之別
勾死付川付安泊川同様に蛇籠より難保し付大井
川に准し事尺七寸に尺流す一化し許儀より新
同様に由流す尺七寸に尺流す一化し許儀より新

相州酒白川

一 蛇籠長六尺
夏渡寺尺五寸

此法石止合地夕七丈

右酒匂川之儀先ハ夏渡寺尺五寸ニ蛇籠由度川
度川勾配不相面ニ蛇籠小左出水ニ席敷礼或者押
切保不中ナリト主之籠亦幸同ニ六本法ノ積リニ付籠法
石坪多殊保方不面身由不蓋相見ナリ付生方由普
積被掛ニ付竹付以後井沢保也多掛及掛ニ席敷
渡寺尺五寸ニ籠川相面ニ有由度川上ノ知保也
之相飼中ニ有由度寺尺五寸ニ蛇籠ニ付生方由保
方川相面相見中ナリ

甲州川

一 蛇籠長六尺
夏渡寺尺七寸

一 此法石止合地夕七丈

右川ノ儀先ハ夏渡寺尺五寸ニ蛇籠由度川

度川勾配不相面ニ蛇籠小左出水ニ席敷礼或者押

切保不中ナリト主之籠亦幸同ニ六本法ノ積リニ付籠法

石坪多殊保方不面身由不蓋相見ナリ付生方由普

積被掛ニ付竹付以後井沢保也多掛及掛ニ席敷

渡寺尺五寸ニ籠川相面ニ有由度川上ノ知保也

之相飼中ニ有由度寺尺五寸ニ蛇籠ニ付生方由保
方川相面相見中ナリ

信文三十四

除



演

四月

内書上取役

兼倉幸内

若林源内

家記

一石を坪入小籠丈二事

一石籠瓦渡丈六寸 長廿拾間丈七寸

一同丈七寸 長拾八間四尺六寸

一同丈八寸 長拾五間四尺四寸

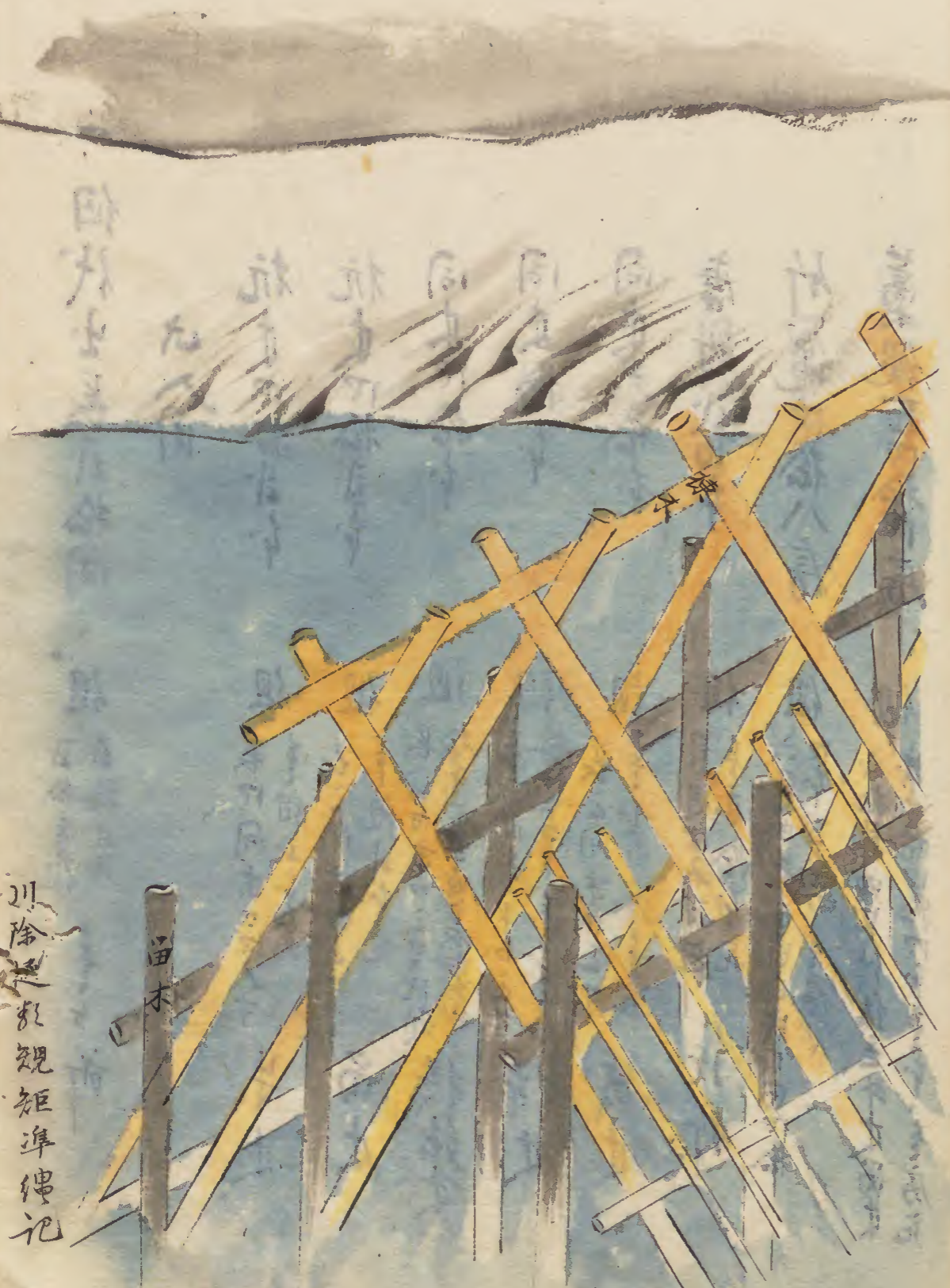
一同丈八寸 長七間丈八寸

定法抄材木根伐書

佃代出之圖



下三



川除規矩準傳記

田代出之圖

一 佃代出長廿拾間

出入用

杭丈四拾貳本

杭丈四拾貳本

同丈四拾本

同丈拾本

同丈六拾本

唐竹貳拾本

竹繩四拾八房

葛繩四拾八房

佃 廿拾本組

長六尺

佃 長四間末口四尺二寸

牛木

佃 長二間末口四尺二寸

苗木

佃 長四尺末口二寸

横結木

佃 長二尺末口二寸

棟木

佃 長二間末口二寸

成木

佃 目通四尺二寸

瓦竹

佃 六尋曲外丈四尺成丈四尺

佃 六尋曲外丈四尺成丈四尺

人等廿八拾八人

百廿拾六人

廿拾六人

六拾人

六拾人

佃 佃間杭五本二人掛

佃 苗丈之間杭五本二人掛

佃 成丈之間杭五本二人掛

佃 横結木棟木外切組結之

佃 小房二人

佃 四川用水方以通仕棟之度法書

六分

杭出之圖



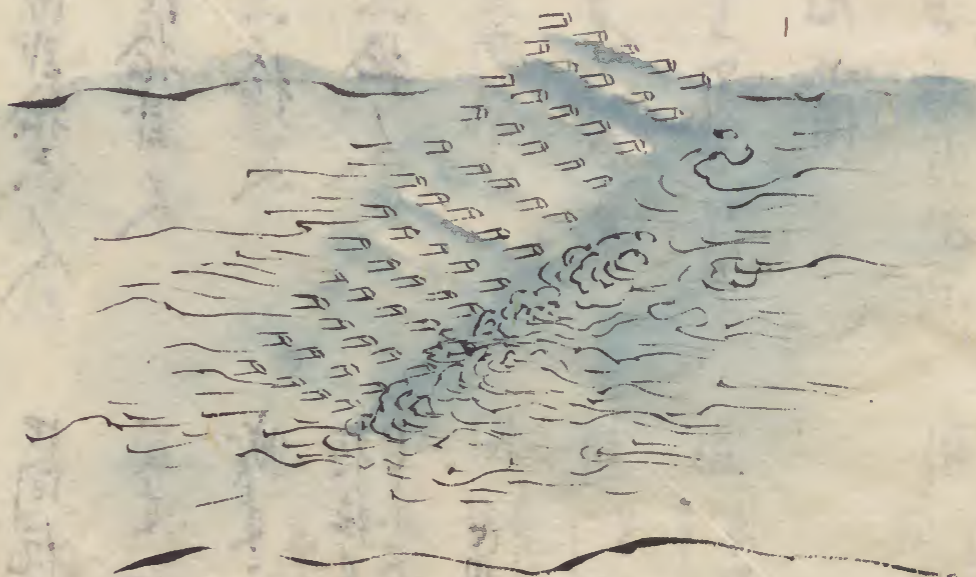
杭

杭

川除樋類規矩準繩記

泥川身一尺五寸之石川ハ根入

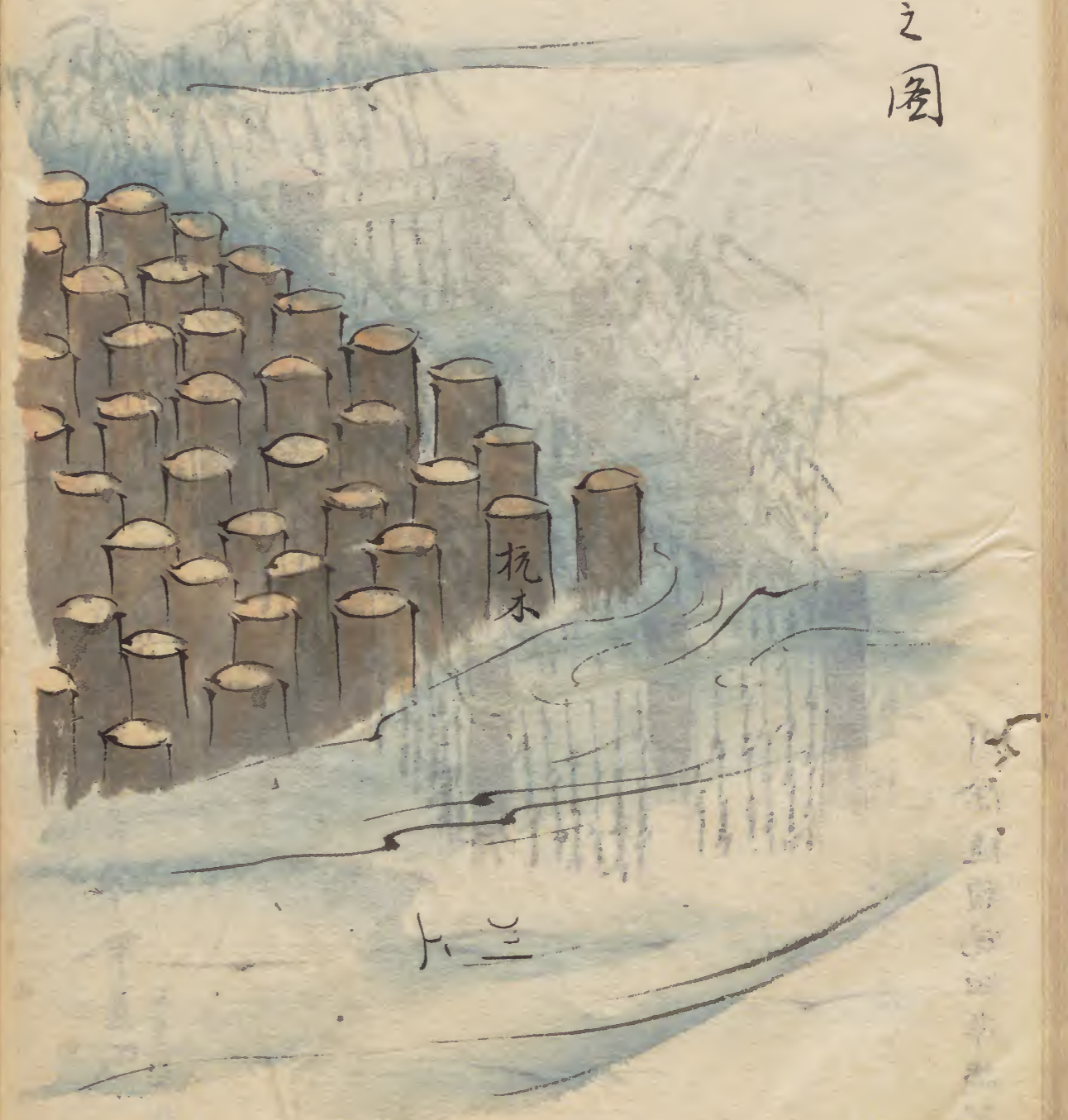
以善法之概集



但礼杭共云

水分抗之圖

水分抗

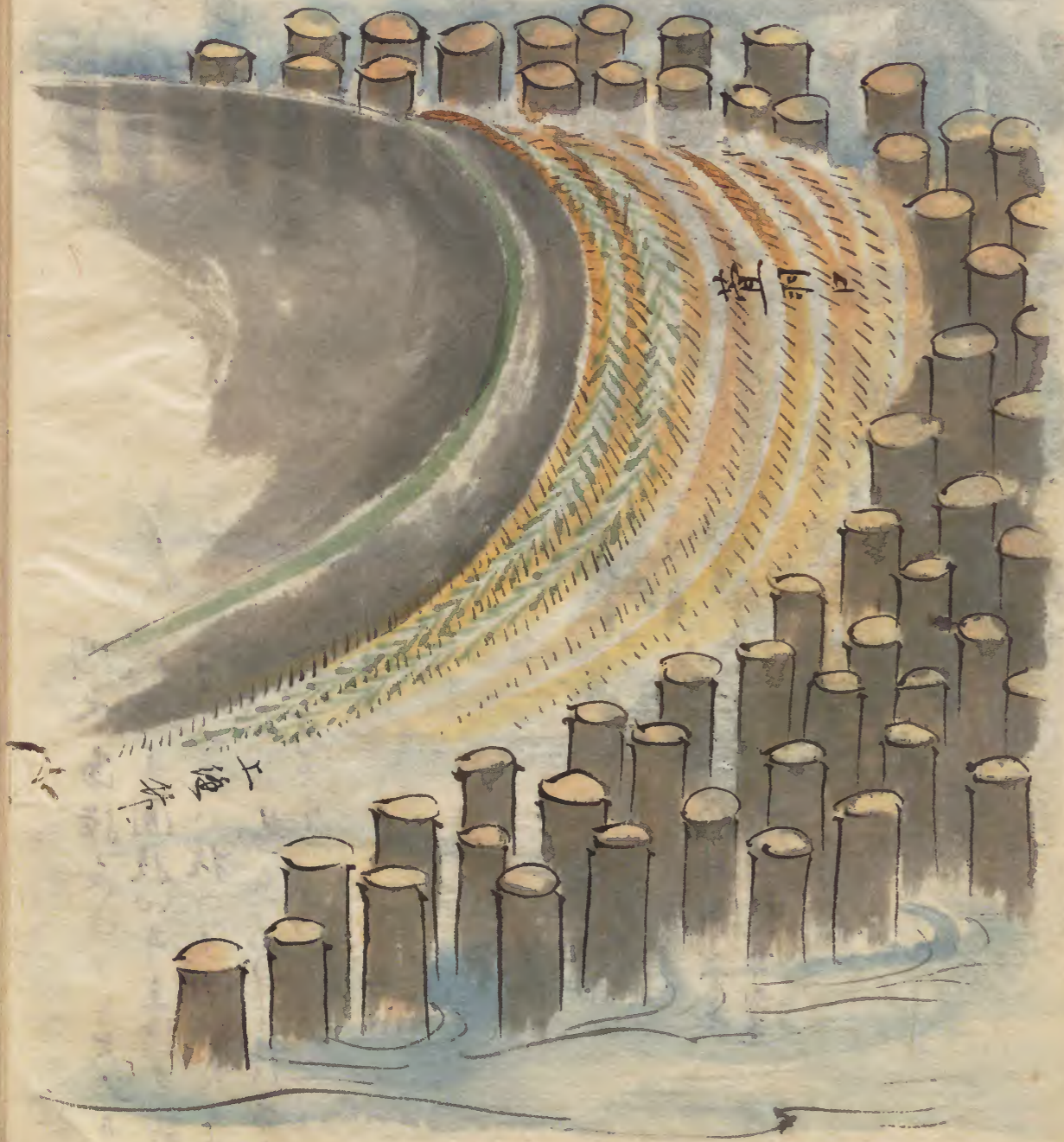


抗水

上二

水分抗之圖

水分抗



水分抗

上海

梁掛杭
出之圖



堀水南陸女中より欠出り如ハ
杭舟を同様に四年立位を以て同
より以て二杭の大きき形を以て
同杭方甚年以て一様方お
寤可なり

枝付雜木在
或可枝軍或



同様杭方甚年以て一様方お
寤可なり

一 梁尾杭出

杭木 末口三寸

多乃送下之本步

堅丈 末口四寸

但 之尺弓、帶、彫、杭、此、帶、付、步、拉、龜、尚

横梁 末口五寸

但 堅、梁、係、下、上、一、通、以、作、之、目、所

杖木 兼丈 長三寸 末口同

但 杭、出、川、上、通、一、杭、木、水、作、根、堅、之、混、雜、木、不、積

明俵 早今九俵

但 亦、条、沉、余、沉、兼、丈、一、通、可、積

繩廿尋曲 但右同以

系直竹 目通三寸 但右同以

大工 但 杭、成、尖、帶、付、梁、帶、穴、彫、仕、之、方、相、和、木、才、人、死

人号

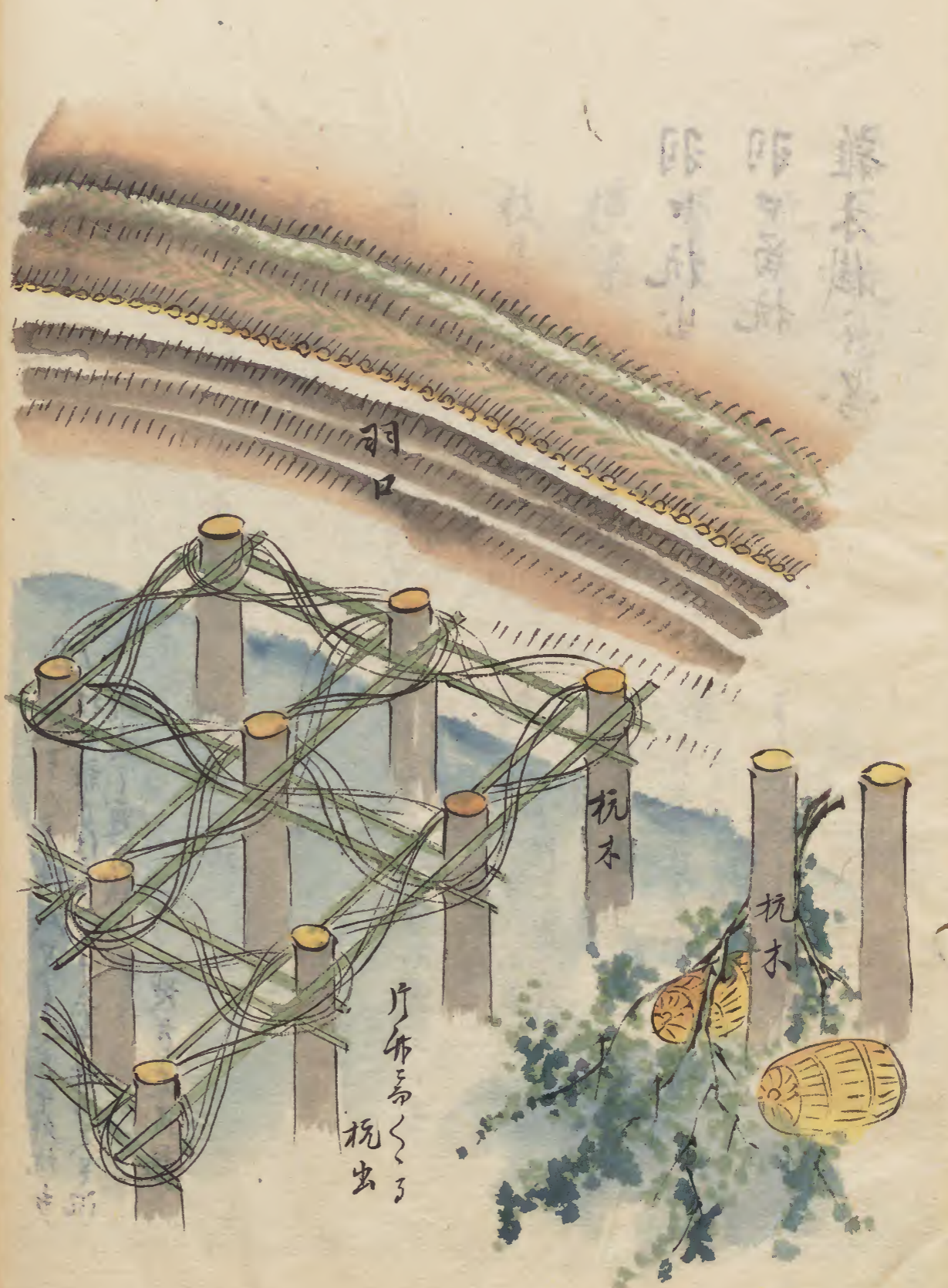
但 大、工、号、人、号、号、人、号、号、人、号、号、人、号、号、外、杭、步、杖、付、兼、丈、仕、之、人、号、号、亦、条、杭、步、人、号、沉、兼、丈、一、通、一、積

地方大成録

羽口杭出
羽口苗杭
雜木掛之号



川作施紅能年備記



片布高々
杭出

杭木

杭木

藤木屋
即
即

一 枕箱丈長之松間

キク新

以入用

雜丈九拾本

但 長丈乃枝間式乃
幸乃之申宛

明儀之百六拾儀

但 雜丈幸乃之四儀宛
四申入

繩百計拾房

但 古儀之儀幸房宛
計拾尋曲

系直竹計百七拾本

但 目通り計百七拾本古儀幸儀
之不儀幸本四少割之ノ老

人号百八人

九拾人 雜丈沉子乃幸本幸人

拾八人 古儀持幸人計拾儀 四川用水方以桶
仕極之定法書

一 杭毎トノ尺々長三七尺位ノ小杭乃ノ送リ之儀本

根入計尺はノ少込系唐竹を杭より杭へ組違

小毎を掻き方ニ尺小一七口尺を七水苗ノ

庭下仕之ヲ用水堰等岸圍ノ毎ハ長尺八尺ノ小杭

小ノ毎高計尺はノ唐竹を二割ノて掻く小川の

ノ切亦々杭毎をノ切一七口ノて掻く方ハ例程

一 毎杭竹積方ノ儀毎竹幸幸坪計計之寸四ノ系

唐竹拾本ノ積口二寸四唐竹老小苗ハ幸幸坪計

拾本足テ計ノ割ノ老ハ申小仕立人号ノ儀幸幸人幸幸坪

仕立定法小由産小組杭本ノ儀幸幸同ノ送リ之儀本杭

長く伐ち毎高之尺に度杭長六尺に積右小准川
毎竹高下る杭目論見仕り

但去地不置場不十毎高一外長杭用中

在方川用水方
其法國內普請
其法書

一 杭毎長百間 但毎高六尺

以平坪之拾之坪之合

右入用

杭中二百寸 長八尺末口二寸

是に長百間不置送り口不歩根之尺

毎高九拾九寸九分 口は歩送
六尺僅寸尺

是に毎高乃平歩坪之末

人尺拾六人七分

十人 杭歩人尺伐尖之廿人拾歩
六人七分 毎極人尺歩人毎歩坪

其法并同材丈根伐書

一 甲州より竹敷長計乃水目通之尺寸拾計本人尺

歩人代り中

甲州川に普請不仕極書

杭出り 杭歩人尺積方一歩

一 杭出りも礼杭もり大泥川小用る水刻之石川

根入蒸炭かーくく横の並ひいみ七なりとて尺

小いも長いもの、送り口をわけて長も川の急い
入の目、歩む水も送って、急い川下の方へかまふ
お新、竹を堅括、掛る新巻、も捷を巻くと
頑固として、松のう捷、をは杭の頭と、あ方より唐
竹を捷、掛竹を結付る頑固、唐竹を、ハッ刻
かいて杭より杭、は遠く頑固の松、のり、付掛
昨の場と、並竹を巻く、又、末は七八寸も、より、杭
根入、深き、歩放、新巻竹を、くも、あ方、或、小川
か、小、屏風、出、杭、と、る、小、送り、口、は、長、川、の
松、子、の、陸、い、川、下、へ、あ、き、(、) 歩、根、算、と、換、き、水

か、も、岸、固、も、い、も、併、泥、川、の、大、河、を、船、岸
固、の、蓋、羽、に、麻、厚、羽、は、ホ、ら、び、ら、方、か、れ、は、
里、敷、有、り、知、り、不、強、羽、は、小、さ、る、り、は、光、羽、の、あ、り
小、も、根、杭、と、歩、より、肝、要、水、面、強、き、場、不、羽、に
い、い、と、余、ハ、杭、と、歩、岸、固、も、い、も、小、川、に、砂
利、亦、蛇、籠、と、巻、入、り、近、途、に、石、さ、り、石、砂、川、に
羽、は、難、成、玉、披、杭、出、に、い、い、砂、利、は、振、入、あ、り、
保、る、け、き、も、川、除、水、刻、の、仕、方、を、一、杭、出、に、
い、い、も、ゆ、い、石、川、に、あ、る、杭、出、一、成、り、い、い、

一 杭出り方の中谷川杯は小石川の松保勿論半乾
 同形洲と舟中根入中一このまゝ長六尺一
 杭根入之尺を丈に杭根入尺を根入之法
 小代を丈に長き杭を根入を雜成の
 小代は丈に長き杭を根入を雜成の
 蛇籠一を石を置く一切川陸に所をこの左
 杭出は之の中保方水清河河川水清
 舟格別遠の中村繩張肝要の度小園赤節川
 床土の小石杭根入丈丈一丈込は能相保
 惣の杭杭出と川中土を小出する用之石の中

一 地方中初の杭苗の水出先苗の杭を流し松
 小口置小口方る送の田本場不考之を六五初
 小口中口且又之同口向口向位一丈杭は少少雜成
 長込中口をよすたこの中このおて中口但る送
 一 この入る所考之をりは之の中 由考は及之
 在井休之書上
 一 杭出り石川の根入をり用ひる砂川の根付
 一 考する用武局杭考の考する考込不中口を苗
 一 左小石川砂川を雜成丈体杭の杭ある之尺計
 一 明ヶ川に水勢弱く考する考る水の水を
 一 松うして水余り流く流る杭たも考る考之尺

- 七明ヶ歩ある根ふせんやさう歩あるはせんある
- 松ヶ歩あるは徳なりまき水強き川に杭のなる十
文字籠入用りあるを杭出さす水に刻り不見
清川上より取ら歩出さるる拾間あるを歩
に下り歩る水に清加減見計しある 白善清大概集
- 石系に杭を歩付石重し杭の根刻入付いたの止此
杭を歩出さいつれ杭より根入結より 地方初信記
- 杭は岩なるに歩入り入兼せつに小口まくれ付は歩
ゆるきをまき足重へし足若杯に伐採は心好遠ある
- 杭は木に杭は歩る杭の改て也 如好縁を削

- 歩へし歩修歩あるに小口まくれ見若し
- 杭はまき川に歩さうし歩に歩る川上まき扱ある
- 歩川流にり流ひん計ある
- 杭は木なる送るに木に木を場下は扱扱木一積
先つらる送るに木に木論杭出さ内は竹流少
も有る是も大難場可也
- 石杭は縁結くさうにまき唐井に木宛 但目通
に付す也
- 杭は川に深漬ふ長短も長みる杭出さ木口守
之向以上は木寸ある木以下も木口寸位に杭に
曲り木口より歩る歩ふきまきさうに直初一歩吟味

四尺半に四尺寸二尺半に四尺寸二尺に二尺寸
寸武居寸二寸武居に二寸九尺の寸

一 杭歩人多い定法を通積 但 歩利交り杯
人足場にお用

一 但杭根入に四尺入六尺入を

一 杭出縁結くさう掛い人多き人よりなる積の

杭歩人多き積方

一 長六七尺 末口寸五分 但土地堅場の不ぞう 多し人 計拾五歩
又二拾五歩

一 長八九尺 末口寸五分 多し人 拾八歩

一 長十丈 末口寸五分 多し人 計拾五歩

一 長武間 同前 多し人 四歩

一 長武間 同前 多し人 五歩

一 長之間 末口四寸 多し人 多し人

一 長之間 末口八寸 多し人 多し人掛り

是れ震杭也歩多し入る

一 長四間 末口四寸 多し人 二人掛り

一 長四間 末口六寸 多し人 五人掛り

一 長八間 末口八寸 多し人 八人掛り

右土地石交りかゝり掛り多し一考也 普請目録見明細書

一 杭は甲長より長之間末口寸多し人足歩人代

同長武間末口同前多し人足歩人代

同長武間末口同形者中人只一人之代同長九尺末口
武寸分者中人只一人之代但九尺之抗は之
分一村役之合二而入用云々
甲州川の西普清平仕松吉

一 抗出長延之拾八間

以入用

由林末七拾七本

佃 寺尾送
之本

計拾四本

長二尺末口八寸

計拾四本

長武尺末口四寸

計拾九本

長武尺末口二寸

人只四拾七人

六人八

長二尺末口六寸二尺
根伐者一人之末口伐

四人

長武尺末口四寸二尺
根伐者一人之本伐

計八人

長武間末口二寸二尺
根伐者一人拾四本下伐

六拾六人

長二間末口八寸是也持運也普清平
由林之役返及法武間末口七尺持之也持
一四六里歩以積

計拾四人

長武尺末口四寸二尺者中人持
之也持及法武間

九人七

長武尺末口二寸二尺者中人持
之也持及法武間

計拾四人

長之有杭人者本持伐出

八人

長之有杭人者本持伐出

六人計十

長之有杭人者本持伐出

右中口林より根伐持運之仕方なり

一 杭出長延計拾八間

小の先入通

きヶ所

以入用

杭木八拾六本

但之乃送之

拾四本

小の先入通

拾四本

小の先入通

拾四本

小の先入通

拾四本

小の先入通

唐竹百計拾六本

但目色四本計縁造りくさるる

百拾六人

小の先入通

拾四人

小の先入通

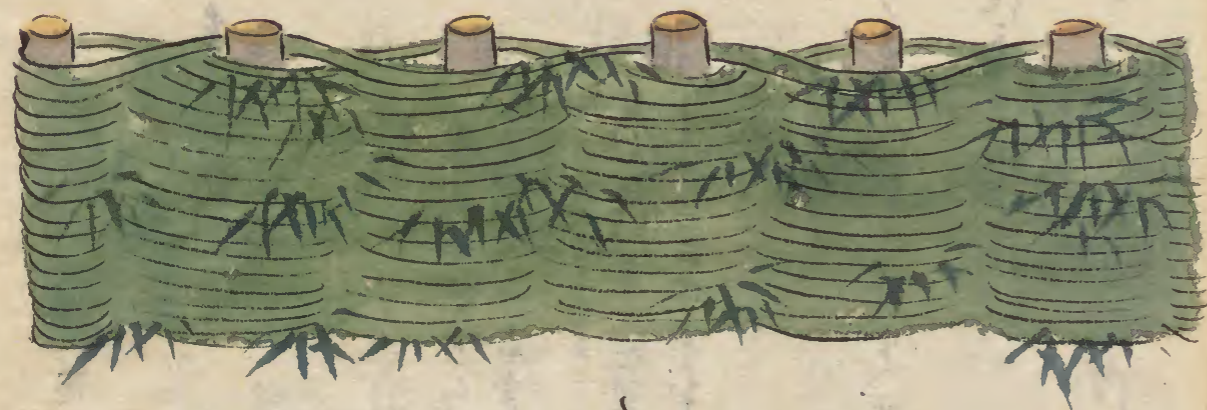
拾四人

小の先入通

二人

小の先入通

横舟之号



川上

竖竹舟之号



竖竹舟之号
川上之方上個代のこゝ

一 堅筒長拾間

以八用

杭木百廿拾本

葉唐竹百廿拾本

人足之拾四人

門

四人

筒仕之三人入乃

之ヶ所

川除植於規矩準繩記

但

長廿四末四寸
之間之本廿五寸

但

目通之寸廿四寸
之石二十寸本

之拾人

杭步之人四本伐尖共

一 橫筒長八拾間

以平坪廿拾八坪

以八用

杭木百廿本

葉唐竹子本

人足拾八人

拾三人

五人

之尺

之ヶ所

但

長九尺末四寸
之坪四拾本

但

目通之寸四寸
之坪四拾本

杭步之人八本伐尖共

筒檢之人八坪檢

四川用水方以植仕格了定法

立水之圖

九平村立水之圖
立水之圖
九平村立水之圖
立水之圖
九平村立水之圖
立水之圖



立水

立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖
立水之圖



川徐榭類規矩準繩記

之竹

之竹は海にホシ浪除に用る水刺しは六寸厚の唐竹
 系付として元の方切尖し平を坪に拾はふおふく
 目之敷う積うして浪除水刺にいし泥川を
 七上川にさしこし砂川浪川ホ小川といひ之井は
 同一名目として七仕之方大り遠く前を記すや根
 杭の内の方岸用凡をるをむかひ杭して之系
 唐竹も根根のたき建上下式ケ不様く押縁をぬし
 杭は徳村川除にもある岸迄は地留もいし杭
 毎ふて雜保場所川除あり 地方凡例証



一 之竹を坪：竹 系唐非目色二寸也平を坪之拾六寸近
人只寺人竹而六十本切去一才

是は乃々六本之長横に弓三寸書面に乃々刻合と

以可積 地方丈成録

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

河々善法之部

水利農務
陶器之六

桐牛 聖牛 笈牛 桐木牛

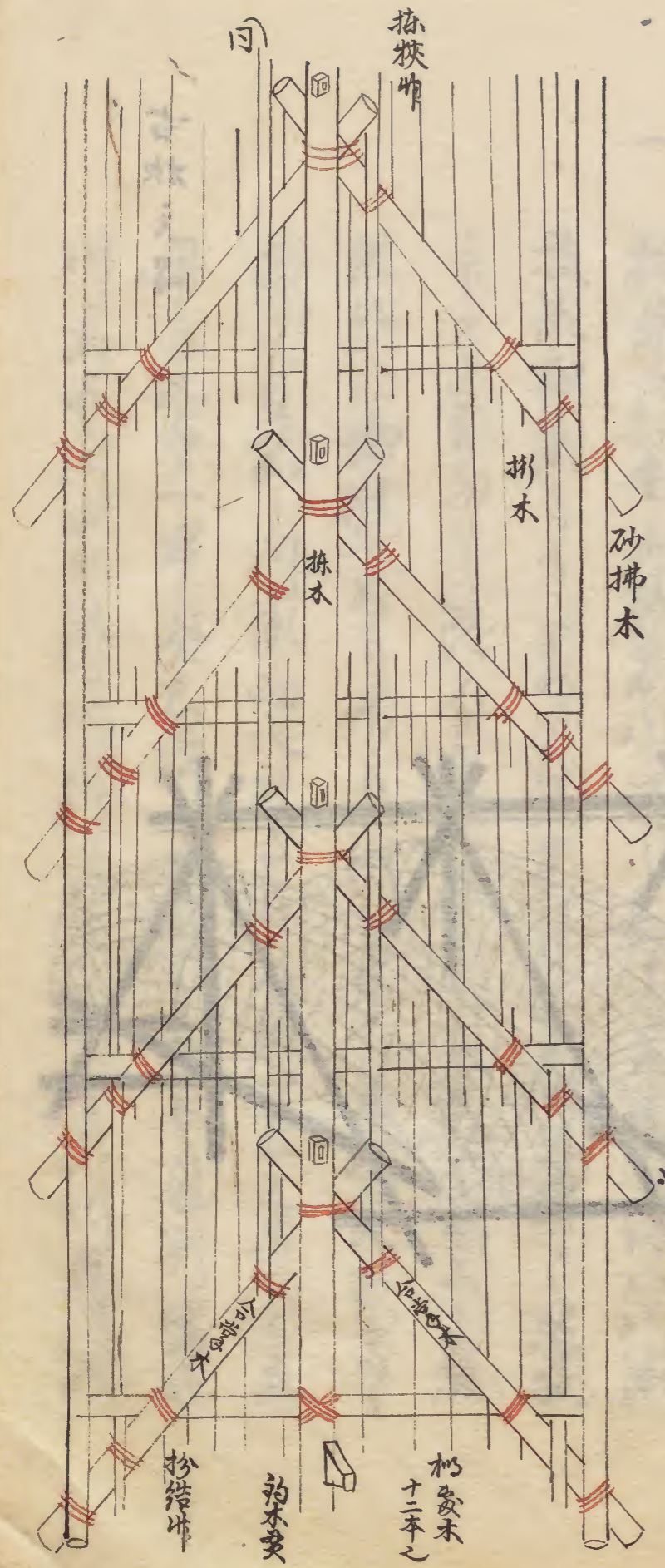
尺木牛 尺木恒之車

秤出 鏡秤 沉秤 斤秤

量秤 算秤 官管秤 猪子

九尺秤 六尺四寸九尺之大四尺秤

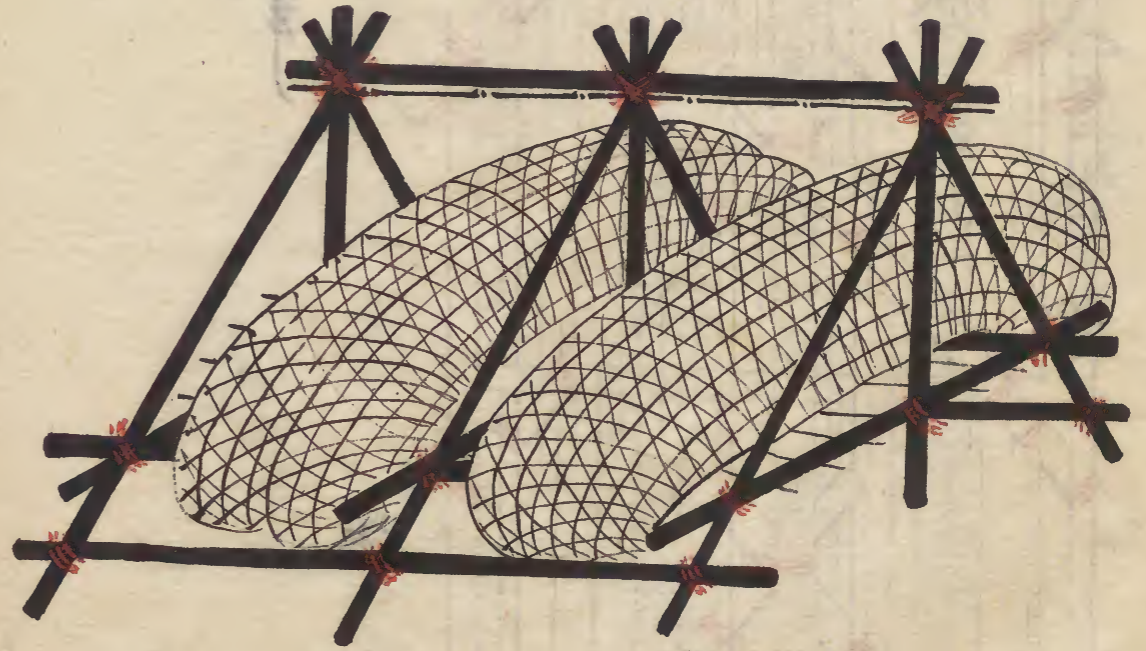
三角秤 每壹秤之事



桐斗之事

附 拵斗之事
川倉之事

拵斗之事
川倉之事
拵斗之事
川倉之事
拵斗之事
川倉之事
拵斗之事
川倉之事
拵斗之事
川倉之事



右柳半水深の所ありて柳言く鎌意ありて
仕立方生所の人は村役人仕立しつゝ之のあり給
弦作意入しつゝ之の行動あり

一 柳斗は是れ砂石川用なるあり入方と係り川
技深本漸ともよあるの給ありて何れありて
しつゝ是れありて陸分水出するしつゝ是れありて

川

係りて地形入りたり測をとりて是れ地形言
ある自然と川漸向へ給するを足らざるしつゝ
司る所あり甲外ありて川と或を強別留す
川ありて川業科川於此處川由此川真河川

瀬戸川を於天於管河よりく是を壬午の相
別酒向川よも用ゑる實在の川計少くも此
河川砂河はまゝり麓をる見たりといへ不用と利
根川なりといへ壬午用ゑるなり元來根川大原
外より木牛洞木外より木根なりといへ甲斐
より流下より結末は城京深年中より流
國にく用ゑるなり信玄時分より河川臨と云
然る河臨の川と漸向又是水行出ありた
別 是より考へて切立あり人住まはるは是より後
川臨及大破くはとも切立あり人住まはるは是

立出へ是流矢致はるも大水深の河川
より是あり大池より破折の致するは下
とありへはありははたしたる人といふ
破折をく川漸のころは田畑もなほあり
成ゆへ根川より組立深き一なりその水
是より切立ありものを是より川入の致
行ありははたしたる細き方より多くは
ゆひしころなり 普濟目録見ゆ細書
一 根川大原木牛洞木牛美木牛等と流し
尤後木牛美木牛より後強き文と成との山は強

富士川の清川をふくむべく相用ひ給得申上
之方より牛糞と糞行能ぬぬと一纏と練
之より水該方へ文字より水清らぬと一纏と流
おに結立ぬらぬ保方法より此例より此結立
へを少流出し結立ぬ方より一纏と流ぬ川
水と結立ぬ得ぬ殊と牛糞を寄交成之の
より牛糞結立ぬより一纏と流ぬ川成ぬの事
或天より結立ぬより一纏と流ぬ常水根下を
り中山の如く水根下を流ぬ川成ぬ水
下南より水根をり牛糞と結立ぬ川成ぬ

以て水と根とを系釈し川成ぬり也相止
より此川中より水根と川成ぬは川筋
此相地より水根と川成ぬは川筋
相成ぬ川成ぬより水根と川成ぬは川筋
川成ぬは川成ぬより水根と川成ぬは川筋
管甲から水根と川成ぬは川成ぬは川筋
このより水根と川成ぬは川成ぬは川筋
此水根より水根と川成ぬは川成ぬは川筋
り此水根と川成ぬは川成ぬは川筋

富士川

一 棚外拾紙 但九尺小百

衣入用

雜木口拾之巾長四尺

内

或拾巾 合掌木口拾之巾

口巾棟木口拾之巾

九巾杉木口拾之巾

拾巾梁木口拾之巾

同木九巾長四尺 末口三寸 杉拂木

是八或小百或巾

同木拾巾長八尺 末口四寸 棚釣木

是八或拾之巾

同木拾巾長六尺 末口四寸 釣木

是八或拾之巾

同木口拾巾長七尺 末口四寸 杉敷木

是八或小百拾巾

唐竹三巾 目通七寸也 栞狭竹

是八或小百或巾

同竹三拾巾 目通六寸也 杉狭竹

是八或拾之巾

人員之檢入

是八或拾之巾

是八或拾之巾

一 重り籠口八寸 一 小弓小

甲州川之長武田籠口也

後別

安倍川
富士川
長川

長川籠口也

御堂後大概集

一 小柳斗

張三尺小柳

合掌木

長八尺

長三寸

長組
或本

梁木

同引

同引

長組
或本

杉木

同引

長組
或本

或本

砂拂木

同引

長組
或本

同引
或本

柳皮木

長八尺

同引

同引
或本

棟竹

目通
或本

或本

栝欏竹

目通
或本

或本

杉椽竹

目通
或本

長組
或本

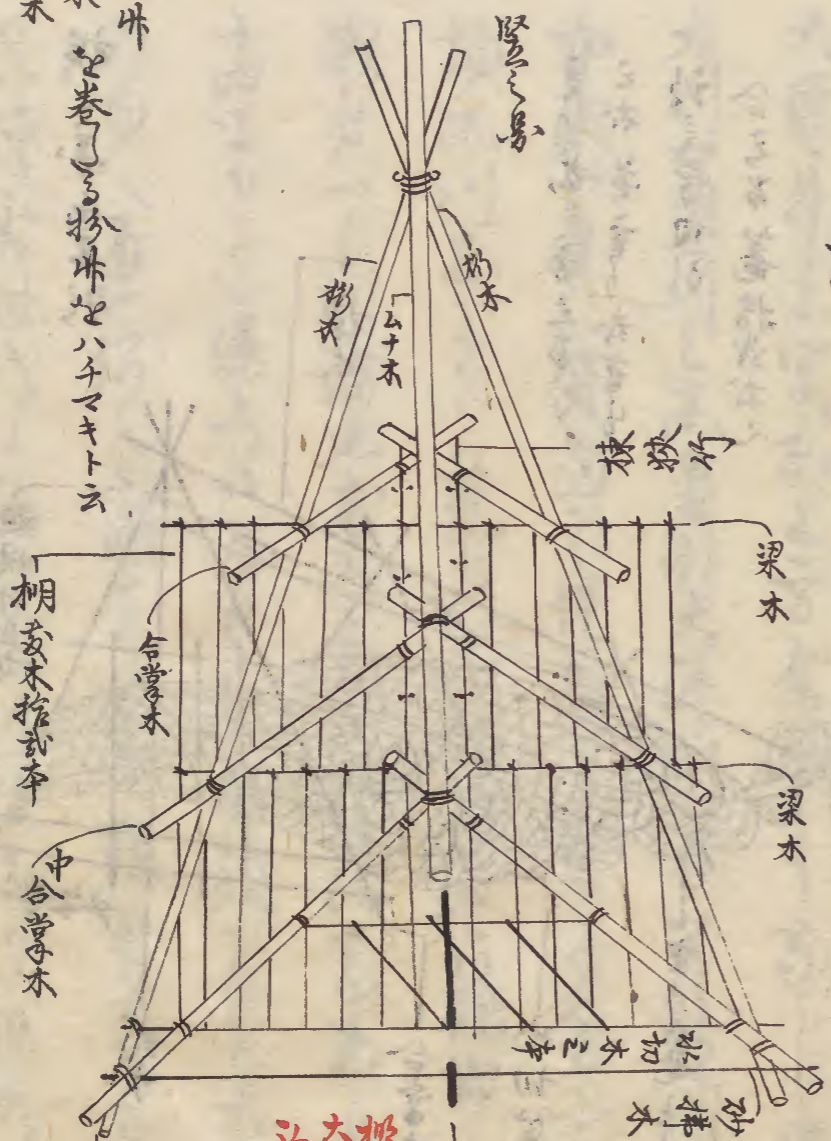
人は長組
人五分

組
小柳斗組之川入地
之竹
目通
或本

地方大成録

大層牛之

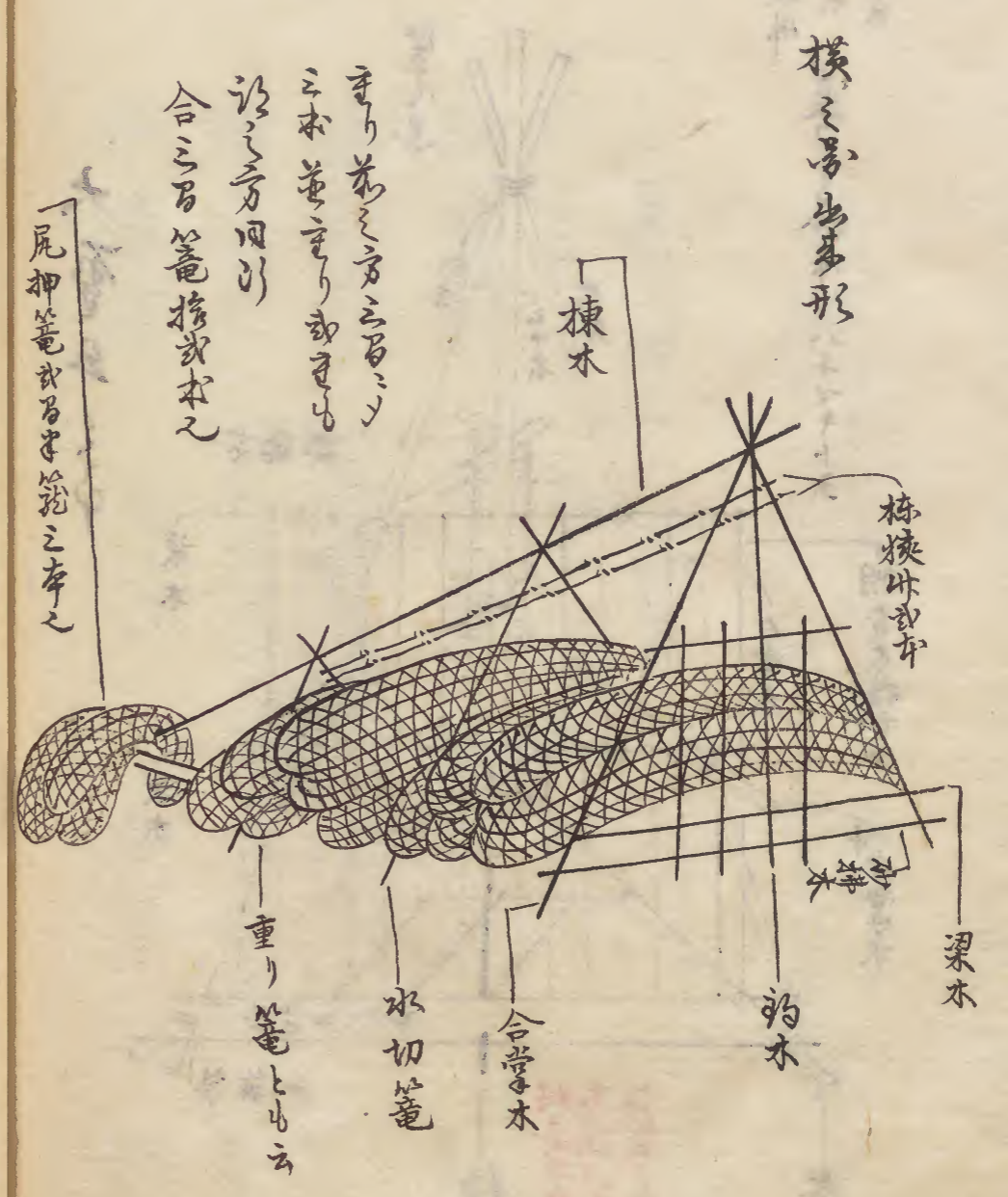
棟架木
棟木
合掌木
と巻し移味せ八千マキト云



杓木
桷板木甲外は括り布也
大井河ハ波板等ハ水切木
杓木は甲外ハ字ニ

大層牛之ノ
入層ノ...
棟架木...
棟木...
合掌木...
束木...
中合掌木...
杓木...
棚板木...
桷板木...
...

一 大要斗志冥東上方余西りあー甲列の内から
 大河富士川と末巻別大井川共了新川川上よ有
 中流一處に安南と堤かーらうのさうとて難保
 切西川とさう荒水を切或は籠中ー方園中
 漸き一と川際地を入る方お積功志あり一初標とあ
 高うさうも保あは及るおととも大遠あるさ
 のゆへに標ゆへ園り一を難勇あり元東甲
 取修古時代と初^初り山川際ふり彼大と一^甲を
 志本及具より大木より一り一りゆさささし得と
 を容易に大と一^甲外とあ故勿論多かしく入用



一 大要外をきり難く分結せしむるそのよし付該
方竹抄亦入念勿漏申品に宣法と寸法より不
足してハ得ず方宣の川除是果之申と内方
を審よ丈丈成とのよし付當時後方江留古川大
井川より相用申付行國よとめ右海川より
准一の川よと用宣の紙之方一と傳ふとい大
文まの保より此を標と川形に向を先定又此水と
之のよしを宣の得を何物と云ふは此に毛取白
文まよ保より此を標と川形に向を先定又此水と

水引紙考一文字より書り水法に根より相結立
申のまといあより水を抱へて提各堂東東取
ゆへを紙とつ續りし紙立の時元立出し紙紙
と少流れ先三紙より紙と抱へ一文字に紙紙
に立紙又と云えと方より一文字より書よと書
し紙とと書相法と書まよと云い立ゆて毛宣の太
概古と由は所ん尤と和と根子と少少取取
とい得を考據志難書一紙に 家記
一 大要外を川剛多と川より紙立保の法を一水と
と多くと少と考據取を標りし川筋自

此と藤中山又大井川富士川相母と至洲とと
麓出外結立のてはあ水落しに先極也押合
流しに方也とすは白濁ありとを大野外幸例元
部例花園と結立のたは水勢をわすは勿濁川麻
へ表出の舟あり也事止と麓由多難と導り
右麓出外中より結立のては水高漲ありとて
外園結立宜いその外大川母と提切あり流より
川瀬あり入るは堤築ありては橋母と結立大野
外部例立よとて切しと常水よと結立切
口起り勿濁ありとては水高漲ありとて切あり

河系と相取しとすはとては相生地ありとては
結立方母と結立のてはとては水高漲ありとて
外と依利方回りよは大井川富士川よの少と
りは荒川ありとては銀言り麓由多難と導り
長とありとてはとては七寸麓之本並式言臨柳之用
引合と引合は麓由多難外外外外外外外外外外
本外外外外外外外外外外外外外外外外外外
外外外外外外外外外外外外外外外外外外外

立方御書結立大野

一 大聖斗子組

衣入用

雜木五本 長六寸

栴木

同本五本 長五寸

栴木

同本六本 長三寸

栴木

内式本 若合掌木

若合掌木

同本之本 長四寸

若合掌木

内式本 中合掌木

若合掌木

同本五本 長五寸

若合掌木

同本五本 長四寸

栴木

三本

水切木

内式檢本

栴木

本

栴木

此二口は臨のりて之を以て極と云ふは法定たれども
百葉書に海甲の海士川に用ひるもの重き木并川に用ひるもの

唐竹五本 目通七寸也

栴狭竹

同竹檢本 目通六寸也

栴狭竹

大之式分 石切組

人は十人 繩三川入

繩七本七分 長五尺

長五尺七分

以石式博七合

一人足

内

七本武分

五本武分

之間の六枚或七枚
有りこのい

動るまうこのい
尾押巻

若くは目録足照細書

一 甲 ^中 中野外 ^左 左組 組長三馬也

右入用

雜木武分

長四馬

長四寸

同本武分

長四馬

長四寸

尾ハ板柳木

同本武分

長四馬

長四寸

内 ^武 武分

兼合掌木
中合掌木

大竹武分

目録七寸四

尾ハ板狭行木切分

中竹武分

目録六寸四

尾ハ杉竹

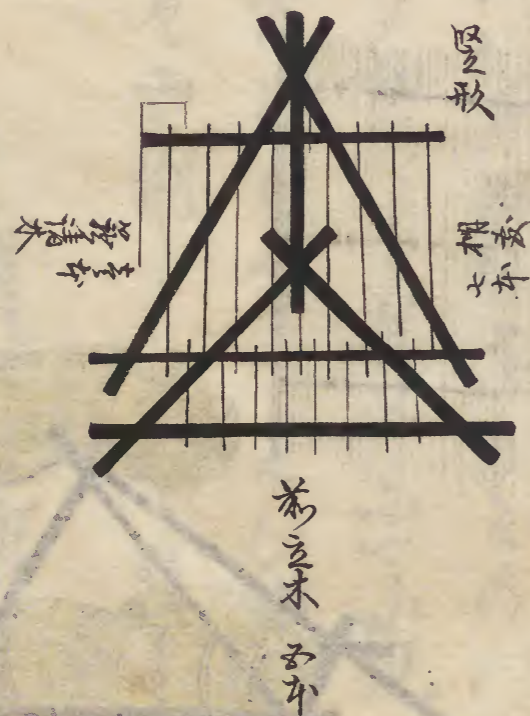
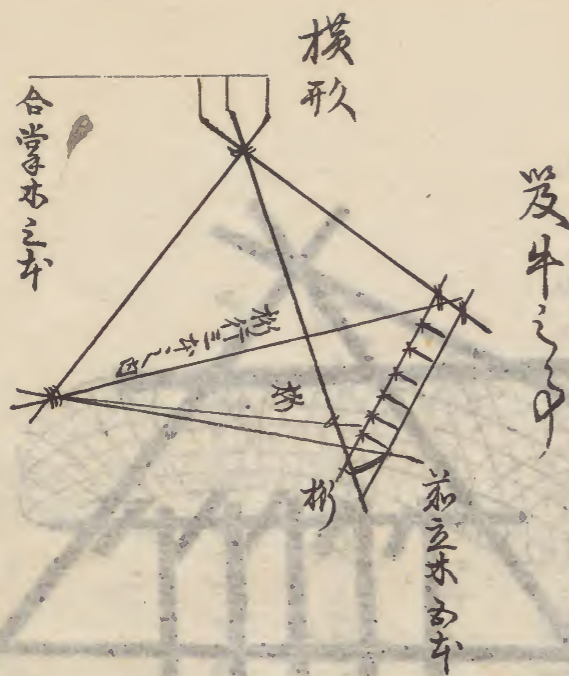
籠二武分

長源寺人七寸

尾ハ内武分甲下長三馬籠九寸
重籠八寸武分籠或甲下長三馬籠

大工武分

尾ハ板木兼三本切組

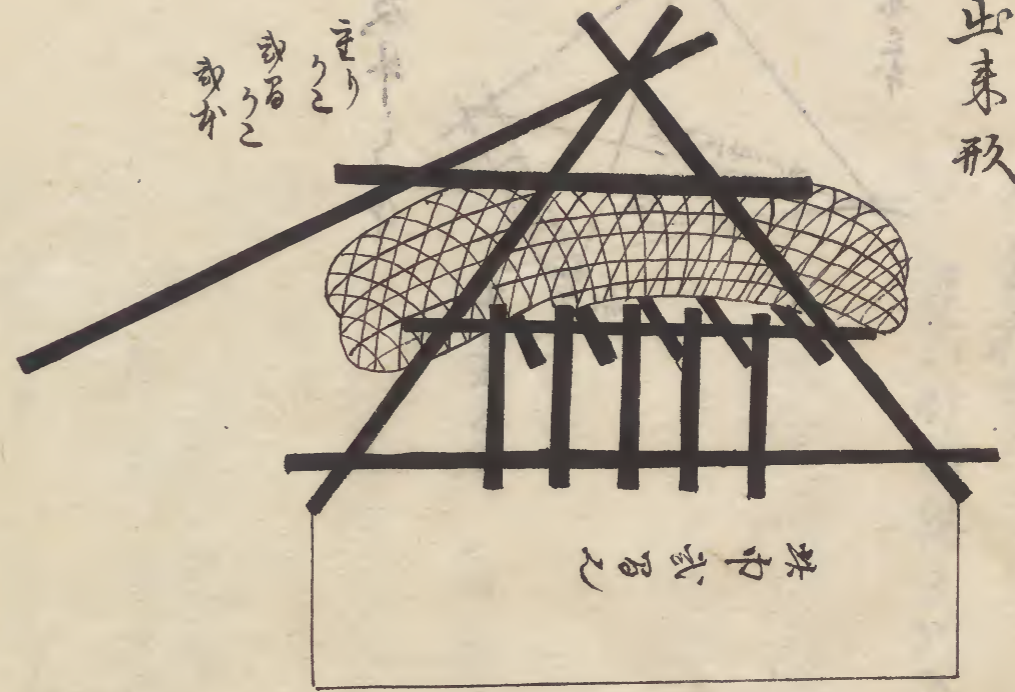


人是柱六人

是竹抄鐵之川入也

甲分川之川際及是建
祖高内坊帳

出束歌

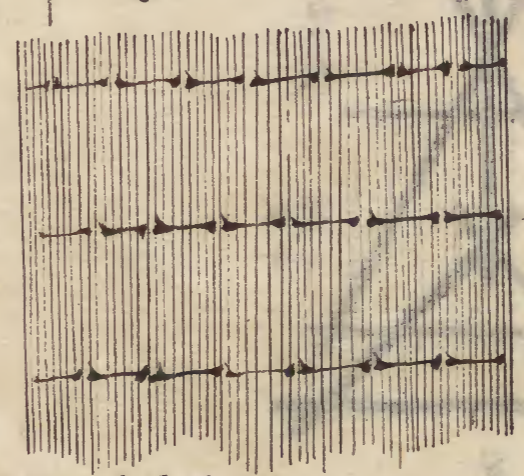


まじり
うご
うご
うご
うご

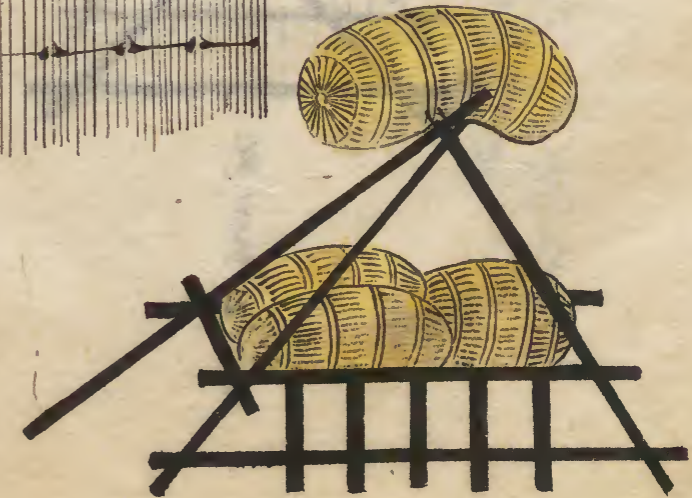
舟中

是を志戸ト云

藤
うま



仮きち儀
まじり舟



揚川橋は時節藤
葉より竹のさし
由心川表へ流る
共遊あとも遊ゆ
一水もせぬ

一 筏舟は大河より川臨く是れ大木に是

り建押さし水刺首より舟を昔川水川水と

大及具は川中を舟中舟中舟中舟中舟中舟中

るあり川遠堀割る時川舟中舟中舟中舟中

へ流るは舟中舟中舟中舟中舟中舟中舟中

史中舟中舟中舟中舟中舟中舟中舟中舟中

りあり舟中舟中舟中舟中舟中舟中舟中

藤原目録見明細書

一 笈牙子組 但長或留也

右入用

雜木八本 長或留 赤口四寸

三本 合掌木

内三本 杉木

三本 砂拂木

圓木六本 長或留 赤口四寸

是ハ敷木 長或留 赤口四寸

圓木四本 長或留 赤口四寸

是ハ赤三本 長或留 赤口四寸

中柄竹三本 目通二寸也

是ハ抄雜竹

蛇籠木 長或留 赤口四寸

是ハ赤三本

人足或人五分

是ハ竹抄竹雜三川八寸

定法兼御抄木根 伐書

一 甲分流 笈牙子組

右入用

雜木七本 長或留 赤口三寸

笛 代赤百五又七分

玉 代赤右圓形

西 代赤九折八又七分

河 代赤六折六又五分

但赤木

但同

但相又五分

内三本 合掌木

杉木

圓木之木

長 貳 寸 貳 分

砂拂木

笛 代 水 指 口 文 八 分
玉 代 水 指 文 九 分
西 代 水 指 文 七 分
河 代 水 七 文 九 分

圓木之木

長 貳 寸 貳 分

杉 木

笛 代 水 之 指 文 六 分
玉 代 水 指 同 河
西 代 水 指 文 七 分
河 代 水 指 文 八 分

但 同 文 貳 分
但 同 文 貳 分
但 同 文 貳 分

圓木之木

長 貳 寸 貳 分

花 之 木

笛 代 水 指 文 貳 分
玉 代 水 指 同 河
河 代 水 指 文 貳 分

但 同 文 七 分
但 同 文 貳 分
但 同 文 貳 分

廣竹之木

目 通 貳 寸 貳 分

杉 木

笛 代 水 指 文 貳 分
玉 代 水 指 同 河
河 代 水 指 文 貳 分

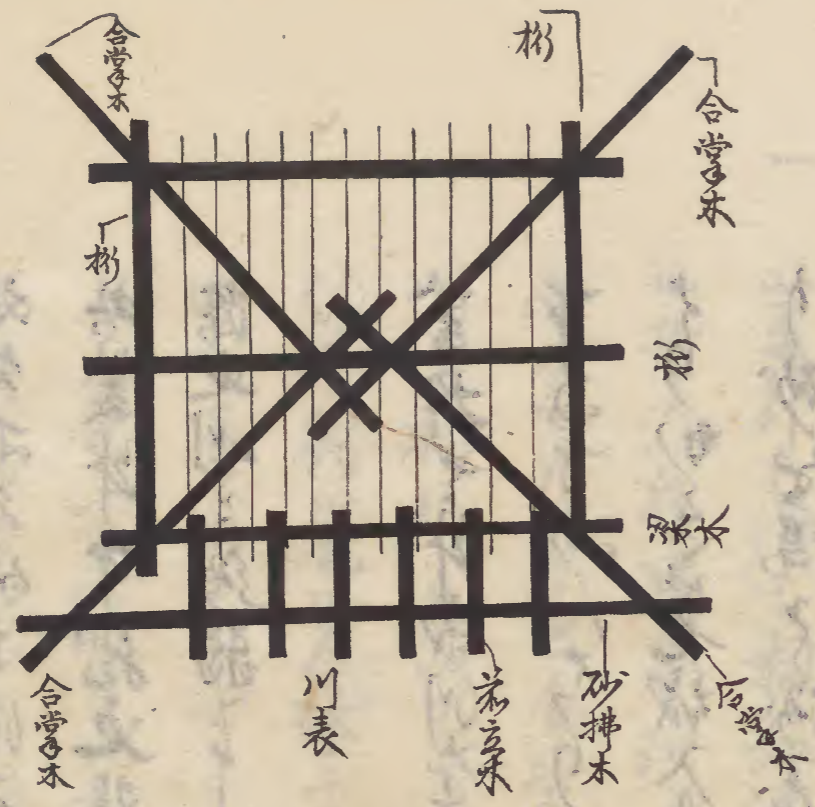
但 同 文 貳 分
但 同 文 貳 分
但 同 文 貳 分

小 山
永 百 七 拾 文 貳 分
永 百 七 拾 文 貳 分
永 百 七 拾 文 貳 分
永 百 七 拾 文 貳 分

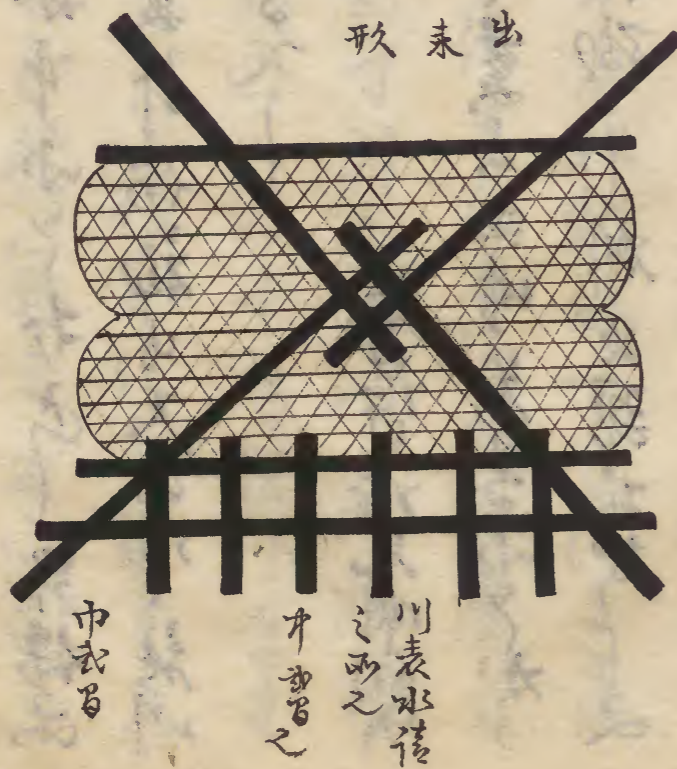
笛 吹
玉 吹
河 吹

舟

人 是 之 人



菱斗之事



純築或向是成本

甲別川之川除及是
能富内記帳

一 菱牙遺方は大野斗極外あとめて身大逆上者
此欠西の刻小流のふ水中山と抄と 羅保の
此菱牙可然也張也菱牙何初も入りの流川
際也川之強弱よりするへ

著者自注見明細云

一 菱牙斗或川を合て菱より紐作る爲きやとが
中もやあんそりの粒致し 極と認本をしま
より川の麓城入申の極の川表方より砂拂茶
り砂を得る流を極の爲る本をせり
らるる水勢弱のふりゆいゆい水勢弱なり

御著者大抵集

一 菱牙の儀は相外酒匂川より一を極迄の相結之中
以北の外甲が川のめくを境極園より結之中の
此菱牙の甚合掌印本極別係の方面にこそ
川の相結之中の極の中は右酒匂引西に
傾き極麓は極を大あすけり川床焼砂
ゆへまより山より極の中は忽轉りて甘き
り菱牙の文字よりおより極中流を極の中
甲はゆへに極を大あすけり極籠の中宛字の
籠の中より極の中は極を大あすけり極籠の中宛字の

へお申法之中心

一 菱井の菱井同形より用ひ中心の菱井を三つ
長より短之菱井は口是く短之は向方
少用切去はくも菱井より得方宜きもの
くは但重く概或冒籠之におよよりお位
と仕事中の菱井菱井並例長或何本
四すよ短之は長く水凍よりり或冒半
本よりと仕事中の籠にお或冒籠はくは
と用ひてハ菱井よりと文更に保官菱井と
と菱井はは等しく三谷川等少く菱井

より別々例を抄菱井ハ少句記留と
く宜くお菱井より本敷をより入中心

立方河川用方
定樹定法

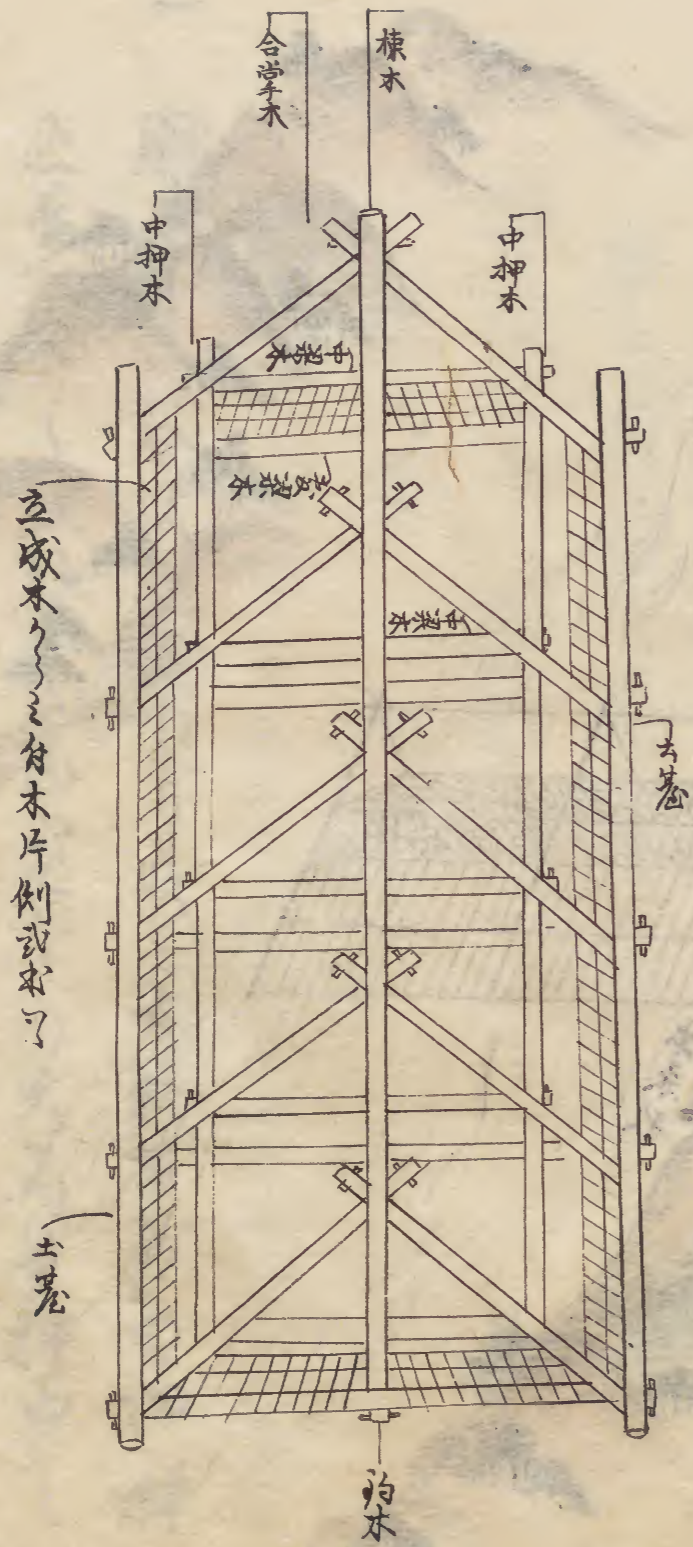
一 菱井を組

右入用

雑木九本 長或写
本或写

内口本 合掌木
口本杉木
幸本梁木

同本幸本 長或写
本或写 砂拂木



胴木牛之事

同木拾中

長七寸五分
木長七寸五分

杉板木

是ハ三組十寸あり入り也

同木拾中

長六尺
木長六尺五分

杉板木

是ハ三組十寸あり入り也

唐行書中 目通し寸也

杉板木

人は口人 縁立川入也

舵籠八分

長五分
厚五分七寸

此ハ或食お向あや六

是ハ或留りこ或由あり入り也

兼法目海舟細書

一 朋来斗ハ谷次江場下り防三右取古砂田畑押
 込谷へ源へ成りわと山麓下り大なる等押出し
 以場所谷へ掘下り掘取れへて石斗能ふ文更
 ぬ高く成剛後下り成り妙なり甲以水

朋来斗ハ谷次江場下り防三右取古砂田畑押
 込谷へ源へ成りわと山麓下り大なる等押出し
 以場所谷へ掘下り掘取れへて石斗能ふ文更
 ぬ高く成剛後下り成り妙なり甲以水



右答法に用ゐる所の余木小て之を紐結之切紐
為入りて懸てまはりの

一 桐木牛を紐 但長武間

長武間

此の七合

右山用

雜木七寸

長武間

内

あ中

合掌木或り伐りて之を方銀之まき方末之方官形一方
常付紐合之て方いある方を常付付古之仕也

或中

合掌木或り伐りて之を常付付合掌毎一あり方官形
へ仕也紐を木より官つりて形初木へ仕也

同木或中

長武間

是ハ初木之合掌毎之を紐結先常付之柄木へ仕也

中ハ合掌へ官形是也紐を木より伐りて

同木或中

長武間

内

或中 或側方官形合掌へ合掌木を是也先

或中 柄木官形合掌毎之柄木是也先

或中 中柄木之是也官形中留木是也

同木或中

長武間

先ハ中留木二つ伐りて合掌毎之を紐結先常付柄木
中柄木へ仕也先

因本字部 長武人 三威本

是ハ三威本之尺寸也 尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例
抄也

因本字部 長武人

是ハ因本字部ノ例也 尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例
付也

尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例

是ハ尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例也

尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例

是ハ尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例也

人長武人

是ハ尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例也

尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例

是ハ尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例也

人長

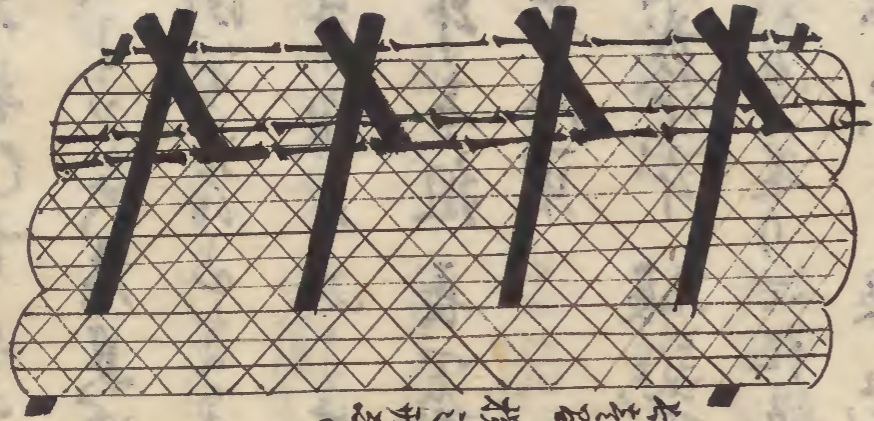
尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例

是ハ尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例也

尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例

人長

是ハ尺寸ノ二ノ四ノ五ノ例也

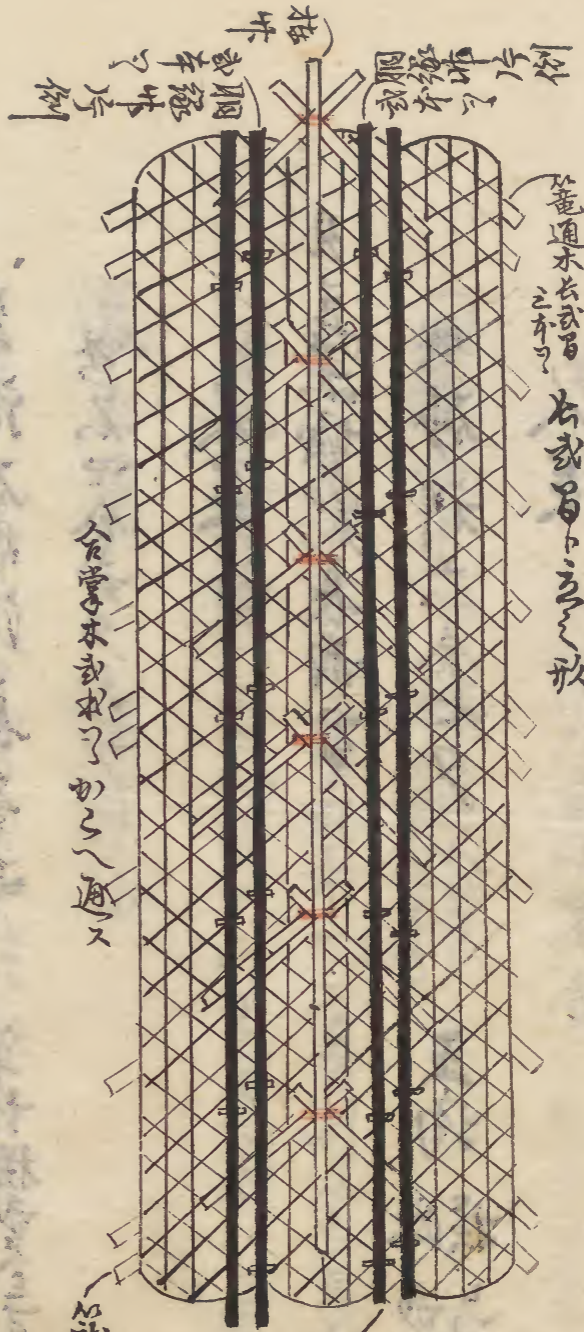


水通木長或目三本

加二通一本
長或目三本

但長或目三本より合掌口
組定し通一本ハ或目三本ハ
り栞竹綱縁作ハ長或目三本
加二通一本ハ

尺木牛之形



水通木長或目三本

加二通一本

長或目三本

綱縁作

合掌木或目三本

一 尺木斗をひき方と舟一甲別より用ひて
川山川より大層異難舟一甲より甚き流
を別測とせしむるより大川よりは難舟五
斗後舟難舟より遠

一 尺木斗を組長四何分

右入用

難木或拾本 長六尺
末口或五分

合掌木

是ハ留り送り口組之他十之組と云組或也

同木六本 長六尺
末口五分

籠舟木

是ハ長或留り之也

二 唐竹十本 目通あり

内

拾本 括昨括狭洞縁竹を分分
或留也

六本 拾竹或組をわし括之組分

或本 齒縁渡り舟也 本三本之竹也

人員八人 結之川入何と云人

舵籠或本分 長六尺
末口五分

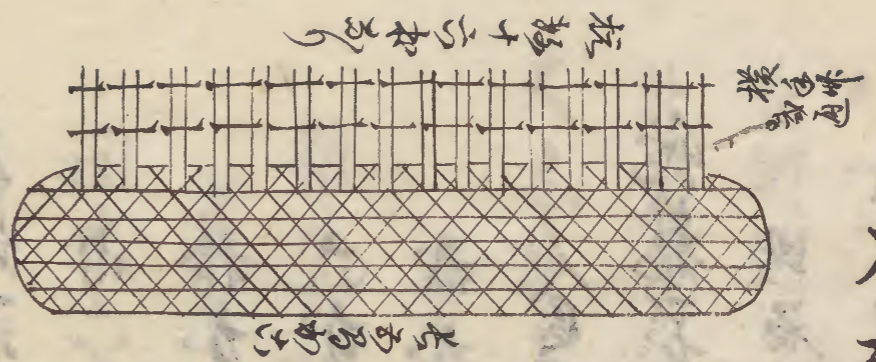
一 此石七合六勺〇八

人員

是ハ或り之留り之也

甲外
尺木垣之事

石川より杭木ふまふを以て舟杭同形あり
 舟杭を以て舟杭のこる城ふ流あり共六天
 と杭を三尺四寸とし舟杭を以て舟杭のこる
 舟杭のこる舟杭のこる舟杭のこる舟杭のこる



右志不松山川舟水垣同新く舟舟く舟舟
 刻あとい舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
 用也

一 尺木垣 長六間

舟入用

雜木杭と舟 長六間

杭木

是ハ舟と送りの舟舟舟

舟竹八寸七分 目通あり

舟舟 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

人是喜人七分

是八枚步抄格縁之とよき人若之留少

腕笔喜弁

長五寸
厚一七寸

此石之合喜勺七寸

人是

管法目海人の細布

甲列筋

大梓出之車



長六尺

梓板

五尺八寸完形之

横板末之柱迄是

三寸七寸

長五尺三寸間或尺

物取
柄取
柄取

一 梓と堤との或は小川中へ入るに用ふ積石陸分
 大石で枕着梓枘場は水あふを梓川表り
 枕籠根巻をの事地形不柔あつてはつてつと
 あつて保ちをえようつてつては陸分地形を場
 へ可なるの谷川を高つて強ふよ用ひつて

芝罘目海凡の細書

一 大梓出〜はう〜をいふ〜高取交とて堤よてを
 切つていふ出〜あせひ難死時え用ひつてり山
 川かき〜あ水さつてたあ〜用ひつてり梓
 之内へ大粒く石入地取つて〜し六の梓入



五成木
式拾四本之

五成木
枕八本之

五成木
枕八本之

以之木刻下... 根在... 根卷也
小抄の里... 御書請出概集

一出梓老組 白法寺堂文書

高四尺三寸
横三寸五分

若石三坪七分

人是

右八用

難木印

長六尺
横三寸

梓柱

是ハ... 官形仕...

同本印

長三寸五分
横三寸

長也

是ハ... 印法... 成柱鼻入出分
とハ... 印可宛出ス

同本印

長四寸五分
横三寸

横也

是ハ... 同ハ... 印可宛出ス

同本印

長四寸五分
横三寸

成也

是ハ... 印可宛出ス

同本印

長四寸五分
横三寸

成也

是ハ... 印可宛出ス
十八印宛出先ニ老如刻

繩子房

或指為曲

石くさ付角

大工口人

号ハ方加紐仕立

右切紐仕立

又長六人

踏立河入

甲外流

一 申梓之組

内法

高口尺三寸
長六寸五分
横八尺四寸

此石之棟九合

右入用

雜木口巾

長六寸

梓之柱

当
五代永百三拾三文二分

但
同
三拾三文二分

河代永百三拾六文二分

但
同
三拾六文二分

同木口巾

長六寸五分

長
六寸

當
五代永九拾八文二分

但
同
九拾八文二分

河代永七拾八文二分

但
同
七拾八文二分

同木口巾

長六寸五分

横
費

当
五代永七拾六文二分

但
同
七拾六文二分

河代永七拾七文二分

但
同
七拾七文二分

同木口巾

長六寸五分

根
本

猫代永武拾四文

河代永拾九文六分

同本拾六文 長七寸六分

猫代永武拾五文六分

河代永百三拾九文七分

同本拾六文 長六寸

猫代永百八拾六文

河代永百三拾四文

繩拾武房 長拾寸

交水

但桐 文五分

但桐 文七分

三成木

但桐 文五分

但桐 文四分

猫代永八文三分

河代永拾五文七分

大工三人

賢永百拾武文五分

小永八百九拾六文三分

永七百拾三文

外

一人是五人

但拾房 文九分

但拾 文五分

但 文五分

猫代

河内

同新
小梓寺組

内法
長八尺八寸

以石九合

右入用

雜木口巾

長八尺
末四寸

西代永百六拾之文六分

西代永百三拾六文四分

河代永右同制

同木口巾

長七尺五寸
末四寸

西代永七拾六文八分

西代永七拾六文五分

河代永六拾七文五分

同木口巾

長八尺
末四寸

西代永百拾六文

西代永百拾六文五分

河代永右同制

同木口巾

長八尺
末四寸

西代永百或拾六文八分

西代永百或拾六文七分

河代永百或拾六文四分

同木口巾

長八尺
末四寸

同木口巾

梓杓

但同
長九尺九分

但同
長八尺五分

長杓

但同
長九尺二分

但同
長九尺五分

但同
長八尺八分

枓杓

但同
長八尺

但同
長七尺五分

枓成木

但同
長九尺五分

但同
長八尺九分

但同
長八尺八分

立成木

第代永百之拾六文二分

西代永百拾文

一河代永百五文六分

繩九房 或指壽曲

第代永百五文二分

西代永拾之文

河代永拾之文二分

大工三人

賀永百拾或文二分

但三同 文二分

但或同 文二分

但或同 文二分

但拾房 文九分

但拾同 文二分

但拾同 文二分

但拾人 文二分

永百七拾六文二分

山以永百五拾七文二分

永百拾或文二分

外

人足之人

第吹

西形

河内

甲河内川除及具延
能向白沢帳

續梓之事

一 續梓長三拾個
 以去式拾五坪
 内法 高六尺



人是百人

但 原 坪 人

右入用

梓柱上下中宛彫
 定鼻七人當至元
 乃持りき外に
 持上りも表木
 を入るかり

雜木拾五張

梓柱

是ハ男工よりき、表木、兩側、延、各三拾五分

圓木百拾張 張八尺

貫木

是ハ内百張、中、上、下、男工、或、女工、或、例、一、拾五分
 二拾張、或、三拾張、或、四拾張、或、五拾張、或、六拾張、或、七拾張、或、八拾張、或、九拾張、或、十拾張、或、十一拾張、或、十二拾張、或、十三拾張、或、十四拾張、或、十五拾張、或、十六拾張、或、十七拾張、或、十八拾張、或、十九拾張、或、二十拾張、或、二十一拾張、或、二十二拾張、或、二十三拾張、或、二十四拾張、或、二十五拾張、或、二十六拾張、或、二十七拾張、或、二十八拾張、或、二十九拾張、或、三十拾張、或、三十一拾張、或、三十二拾張、或、三十三拾張、或、三十四拾張、或、三十五拾張、或、三十六拾張、或、三十七拾張、或、三十八拾張、或、三十九拾張、或、四十拾張、或、四十一拾張、或、四十二拾張、或、四十三拾張、或、四十四拾張、或、四十五拾張、或、四十六拾張、或、四十七拾張、或、四十八拾張、或、四十九拾張、或、五十拾張、或、五十一拾張、或、五十二拾張、或、五十三拾張、或、五十四拾張、或、五十五拾張、或、五十六拾張、或、五十七拾張、或、五十八拾張、或、五十九拾張、或、六十拾張、或、六十一拾張、或、六十二拾張、或、六十三拾張、或、六十四拾張、或、六十五拾張、或、六十六拾張、或、六十七拾張、或、六十八拾張、或、六十九拾張、或、七十拾張、或、七十一拾張、或、七十二拾張、或、七十三拾張、或、七十四拾張、或、七十五拾張、或、七十六拾張、或、七十七拾張、或、七十八拾張、或、七十九拾張、或、八十拾張、或、八十一拾張、或、八十二拾張、或、八十三拾張、或、八十四拾張、或、八十五拾張、或、八十六拾張、或、八十七拾張、或、八十八拾張、或、八十九拾張、或、九十拾張、或、九十一拾張、或、九十二拾張、或、九十三拾張、或、九十四拾張、或、九十五拾張、或、九十六拾張、或、九十七拾張、或、九十八拾張、或、九十九拾張、或、百拾張

圓木或百拾張 張七尺

表木

是ハ男工ハ、木、三拾五分

圓木百拾張 張六尺

立成木

是ハ右例、先、打、上、右、二、拾、五分、男、工、三、拾、五分

繩のりの拾房 式拾房曲

是ハ乃ノ拾房の

夫工拾房人

是ハ乃切能成乃ノ人ノ之拾房分

人足拾房人

是ハ乃立地形極ノ立水ノノみ付大工之拾房

昔拾房凡拾房

拾房ノ事

是乃拾房ノ事

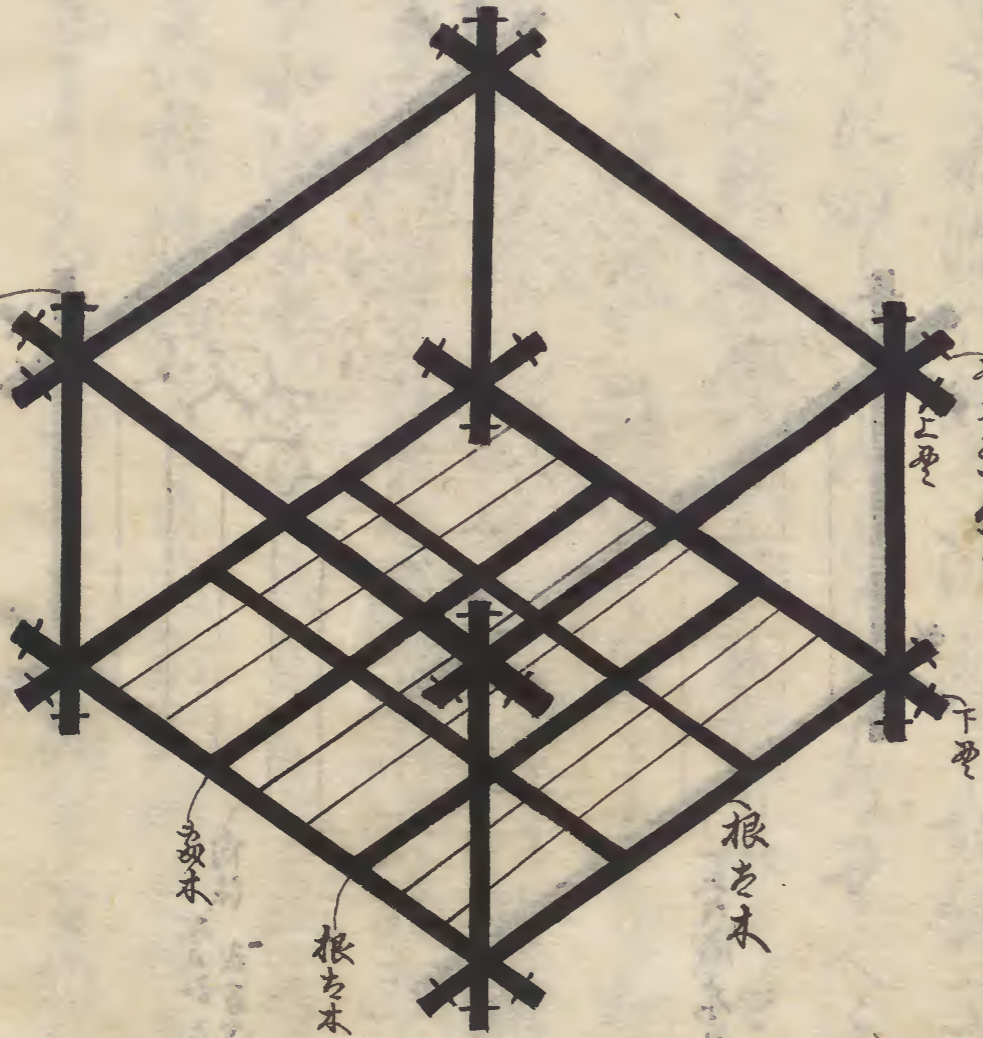
下也

根之本

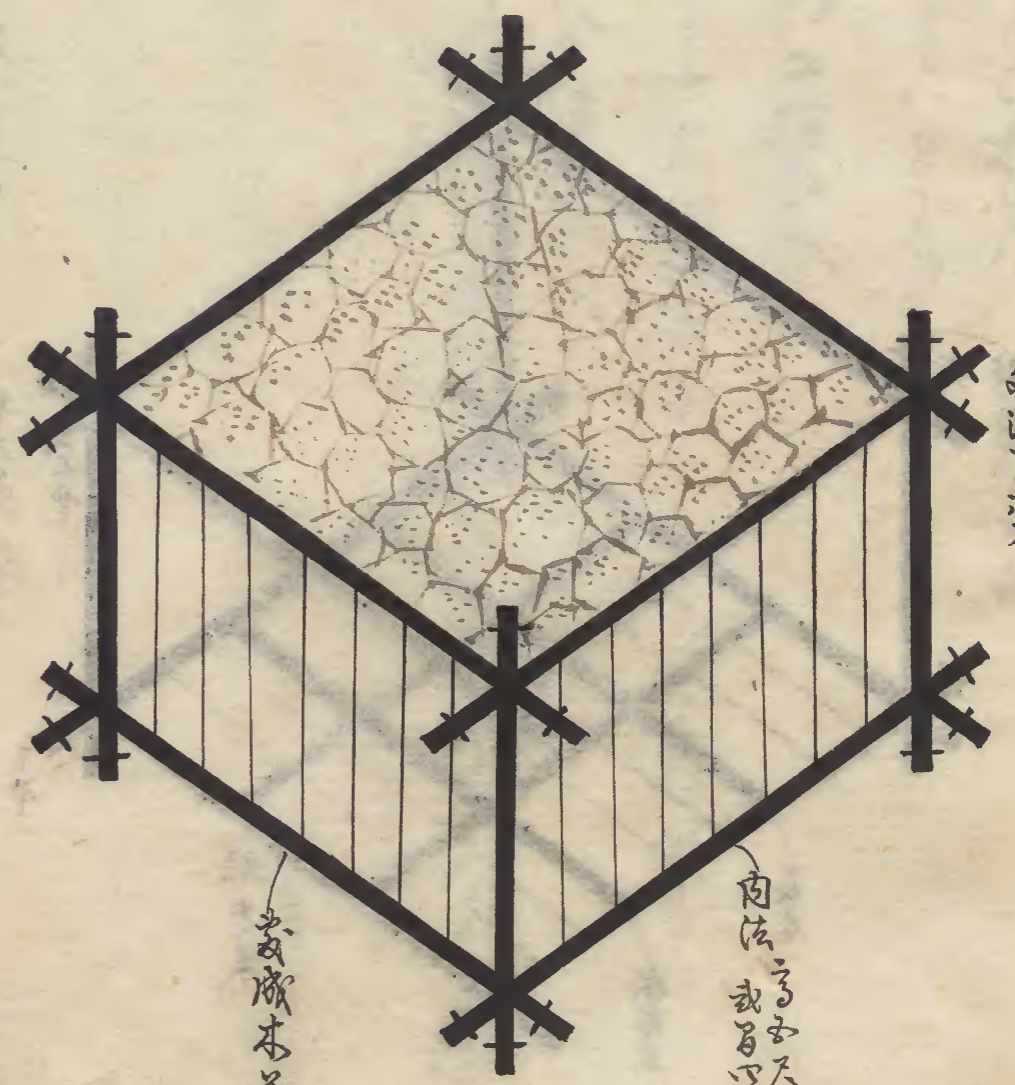
根之本

根之本

梓根



一 河津を水溜りせしめ、陸より切組一式は、石
 入の津に引しり、河と下りり、中へ入るに
 如し、地形に成り、又、陸より、河津に
 碇舟を繩より、強ひ、河津を打込、又、石
 陸より、離せ、石、如く、船より、碇舟、流
 せ、目高、投込、せし、石、陸より、入る、如く、也
 碇舟、水溜り、せし、石、陸より、中へ、石、水、勢、子
 石、変、河、津、流、り、石、有、河、津、上、河、系、碇、舟、上
 碇、舟、石、碇、舟、を、大、綱、を、石、地、形、に、如く、
 石、一、石、河、と、繩、乃、石、を、石、一、石、流、り、石、一、石、



外法

内法

碇舟

さしを遠くへせよとのかり入方
かゝる山々人足にお中せ方行
出地形数河川入地形成事

一 大抵本出に数拾部ありて
月廿程を以てハ出集難致
らハ或組心て了然出ハ
少々不地子

董得論

一 河神と依古大井河
城のく難を起之成
七年久敷又まよ保

川をめぐるとは
遠西より梓
依之梓を方

一 河神と依古大井河
と程よりハ
遠西より梓
河神入
あり

此木梓木少くは穀保尾尾少くもるを以て
此水少くもるを以て相成り
半之中山

在方河川沖
大概集

一 泥梓木組

内法 或る方

此木之味之合

人は

右入用

雜木口木

長三尺
末四寸

梓木

是ハ下中世宮彫仕世鼻少くもる

圓木八本

長三尺
末四寸

母木

是ハ立木口木也

圓木口木

長三尺
末四寸

根木

是ハ下中世宮彫仕世鼻少くもる

圓木口木

長三尺
末四寸

交木

圓木口木

長三尺
末四寸

立木

是ハ下中世宮彫仕世鼻少くもる

圓木口木

長三尺
末四寸

是ハ立木口木也

大工口人

是ハ下中世宮彫仕世鼻少くもる

人は九人

結之川八九

管轄自津見明細書

一斤秤之事

是ハ名所ありは之ヨリ川表秤に結之地方
之方此担量處を二名秤より一ノ名秤ヨリ
相違よりするハ之川表秤に世に別用ヨリ
是之根量之ゆかハ世に侍と名不リ方
川表秤出ハ之のいふ

在方川表方定
掛定済書

一斤秤長拾回

内法高六尺
横三尺

此諸石五秤

亦入用

雜木拾之部 長七尺
末四寸

秤 柱

同木拾之部 長七尺
末四寸

貫木

是ハ上リ或下リ長十尺分

同木九拾部 長七尺
末四寸

立木

同木五拾部 長七尺
末四寸

成木

是ハ上リ或下リ

圓木或拾取 長七尺

是ハ根を切らば下十寸中ツ

根木

圓木拾取 長三尺

是ハ根を切らば下十寸中ツ

加せ留木

方二八人

是ハ切組一式ヨリ八分ツ

人足拾取人

是ハ方二の倍取木一或は之ヨリ寸五分ツ

但取木ヨリ寸五分取木一或は之ヨリ寸五分ツ

一 尺餘身命回

定法無法根伐書

一 堅持之事

是ハ田中休息を更めて玉川舟りり宿し
從法版巻之代りり前方大井川少くも流り
部中の如能得しゆるこい得しゆ入用多
きりゆり人あ耐はむし不中し

在方口川可水言定
掛定法書

一 堅持之組

但長或相因法

高 寸五分
厚 寸五分

右ハ用

雜木之木

長或短
末口寸

梓杓

是ハ之木宛其例分

圓木六挺

是ハ方圓以之其宛其例分其細少七人數

圓木九挺

長或丈中口寸
厚寸

檢費

是ハ檢之其之寸其寸

圓木拾杓

長或短
末口寸

小口木

是ハ口寸打口一其長或短分其寸ハ其寸

圓木之杓

長或短
末口寸

但少口木其寸之寸其口其口檢之其細少房寸

方口人

是ハ切細一式

人員

是ハ方口之切細一式

定法其口其口根伐也

鳥井梓杓組

長或短
末口寸
九尺

但石積法

長或短
末口寸
末口寸

梓杓

長六尺

末口寸

口本

長杓

長或丈六尺寸

末口寸

口本

根杓

長四尺

末口寸

口本

中横木

長三丈六寸

末口四寸

或本

上横木

長六丈

末口四寸

或本

委木

長三丈

末口三寸

檢本

立成木

長六丈

末口三寸

二檢本

内或檢六本之委小口之也

繩六房木

或檢之房曲

大工之人

人是其人

但梓一式仕立大工手傳人は是れ梓内法

諸人は是れ別派之可也

一 合掌梓之組

合掌木

長三丈

末口六寸

八本

下費

長三丈

末口五寸

四本

上費

長三丈六寸

末口四寸

四本

長貫

長三丈六寸

末口四寸

四本

拵木

長三丈四寸

末口四寸

五本

委成木

長三丈三寸

末口四寸五分

檢本

並木

長三丈三寸

末口四寸五分

或檢本

長三丈六寸
或三丈
或三丈

但取諸内法

長三丈六寸
或三丈
或三丈六寸

是八内九折之表山口並本也但右之目七本或少
伐之也

粉竹 目五折一寸四寸 三本

繩之房中 或拾舞曲

大子之人

人長六人

但將一二式大子之傳人是在將自所操人是以子
後可獲

一 猪子之組

腕木 長六尺 青或寸 或本

要木 長六尺 青或寸 或本

唐木 目通一寸四寸 拾或本

明儀 目計入核儀也 拾儀

繩之房 或拾或本

内之儀之右七儀之房少之儀強之房八猪子
強繩

人是三人之分

但三人之物子仕之川入在三分八七儀之人三拾儀操

地方大成源

一 九尺桿長拾圓

由法 高五尺 八寸

此法不檢之標ハ合

右入用

雜木之拾圓 長六尺 青三寸 桿拾

是ハヨシクシヨリ成木ニ三年

圓木之拾圓 長八尺 青四寸 長也

是ハ桿拾圓中ヨリ成木ニ三年

圓木之拾圓 長六尺 青三寸 成木

是ハヨシクシヨリ成木ニ三年ニ檢少ヨシク成木ニ
拾圓完ヨシク檢中切少ヨシク合或檢少ヨシク
ヨシク也

圓木之拾圓 長七尺 青三寸 成木

是ハヨシクシヨリ成木ニ三年

大ニ成拾圓

是ハ切絶少ヨシク成人

人ニ之拾圓

是ハ大ニ成拾圓ト一式ヨシク成人

但成木ノヨシク成絶少ヨシク成屋宛

甲州川原及具建
征高田代帳

一 六尺四方九尺を文二方等持と事

谷川は少く申中山所より大川にては用ひ
よ小川床築を母とせ能く石又まよ疎いハ
筈由し乃流り丈夫と保中山洲川より根乾
付はたをたすく用ひ申甲必りしと多用
大川にて根固よ或留之向く大持留法之強き
水溢り申すよ乃を相持し保申ふ

一 之角持と事

え其利分を若くは海りゆとを形ちえ乃
こくくゆと又まよる程りしりゆたよ川

一 舟考と持と事

舟より陸成川を舟とゆへ舟入りと舟りり
は難ぬは洲川より川床場立の処へも用ひる
た記をのりゆと方と舟本入の留檢好も
石橋敷敷在まり船く舟高と強ゆ均を保懸
委は依とせゆゆ石高の
舟考と持と事
形ち堤のよとく成と乃ゆと二方より舟舟
入船と舟おまより相見へゆ得とゆ是又洲川
小とて舟あり又を運立ゆも舟舟之と
ゆ舟持廻同制川床築ありしとと又まよ保

一 煮て梓葉を川附多き水は高川麻を搥るに
以てしりしと多測してとておのり候を以てし
付川麻搥るに多しとておのり高川麻
等死ぬめくおしは之を得て宜しむ以籠出たて
宜と存りしを入用多し相うりしお下りし
少多と揚所を辨し川際たてしお下りし
測りしを由梓入根籠少し付仕立申す
煮る梓大三人是掛り候と

一 煮向四方之梓
一 煮組大工三人分
一 同人は三人分
一 是ハ大工手傳梓を在り申す
一 九尺之煮向之梓
一 煮組大工三人
一 同人は三人
一 煮向四方之流梓
一 煮組大工二人

同

人は九人

大川を築切る

一 片柵

柵 三丈

長三向

大子九分掛を三人

同

人は五人

是は柵立小る木この形附大子手傳らし

定法集柵根伐書

一 大河を築切るより此川段を西に川倉を之縦掘

より此之指留るにめ指留るに川を大小強弱

依り引下りて築切る是は此以来を築

切ると砂を寄集きたるなり此川倉

と此事川を依り大小あるを縦掘

辨形の内を引下りて中に柵成はるなり

遠を寄り柵成りて是木乃何なり

此之通りと横中成縦ひ法ありて

方よりこのや是菰葉竹葉茶話木の枝

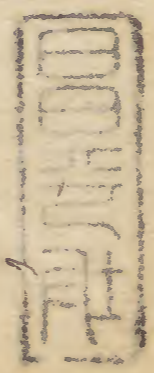
成管より竹葉なり又川倉の前乃方

り古儀を歩込るなり川倉の

記書

他川倉成牛柵ともいふあり然し
 牛柵とは前の別なりあるは
 此の川にふしりする處に大河
 ともいふは艘より大河を
 相立系と云ふべきなり川へ入る
 水あり

一 邊瀬乃川渡り新田に築きし
 堤より川倉を百組に法りし
 と云ふ築きし法あり畢竟堤の
 水とて勿得事あり



河倉



牛柵



山河林に渡り水路あり
 水は牛柵ともいふ
 致し水と路あり

地方必用

慶應内實

燕

燕

昌

